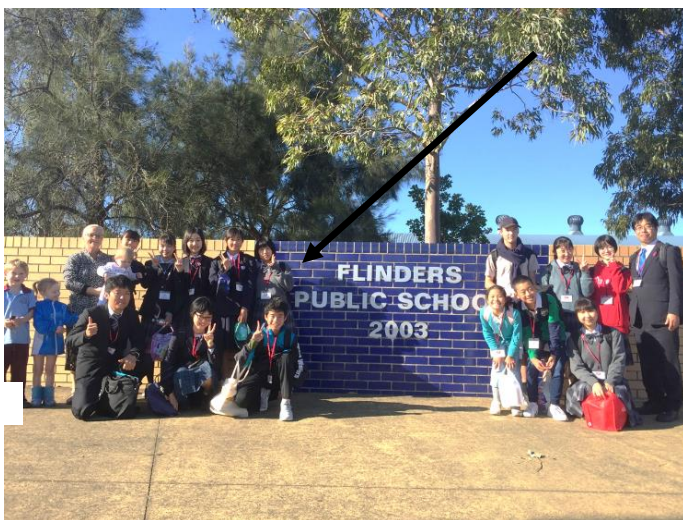


令和元年度 燕市 姉妹都市子ども交流事業・海外派遣事業

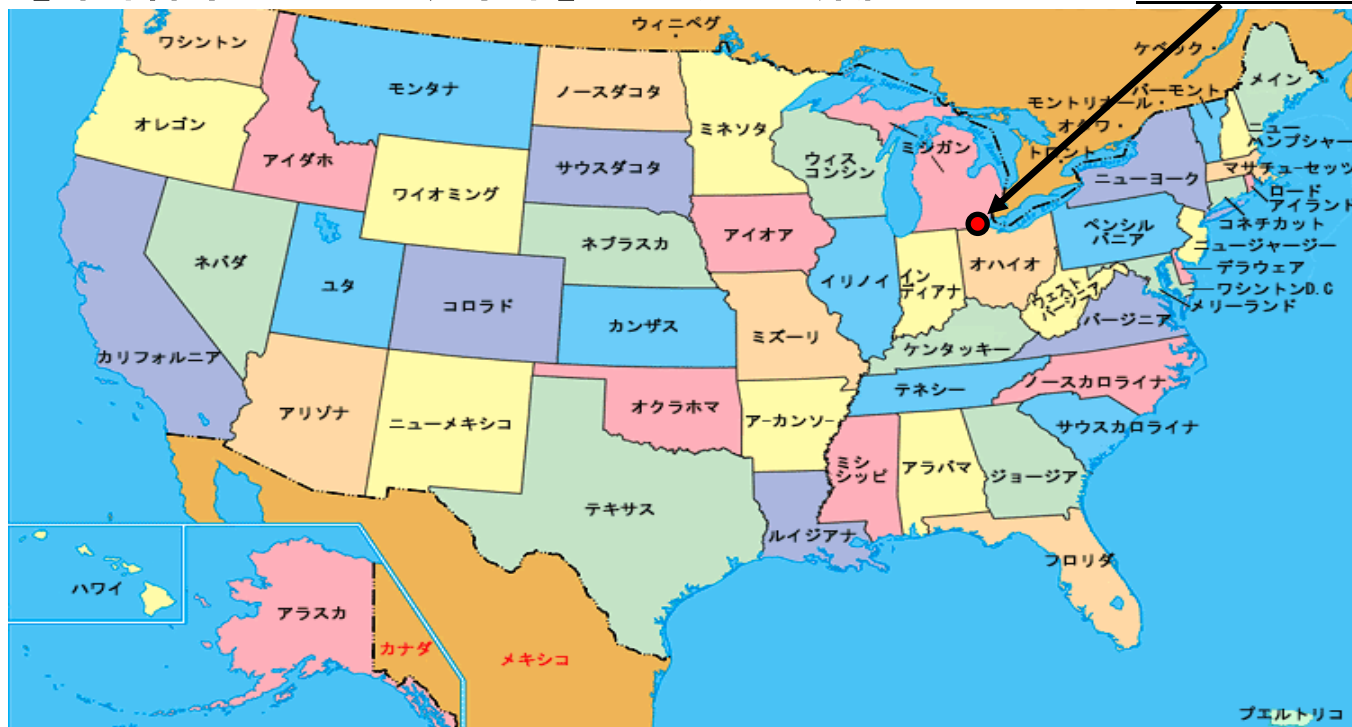
報告書

Plenty of Smiles in Dundee and Sydney



【姉妹都市子ども交流事業】アメリカ

【姉妹都市子ども交流事業】アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村



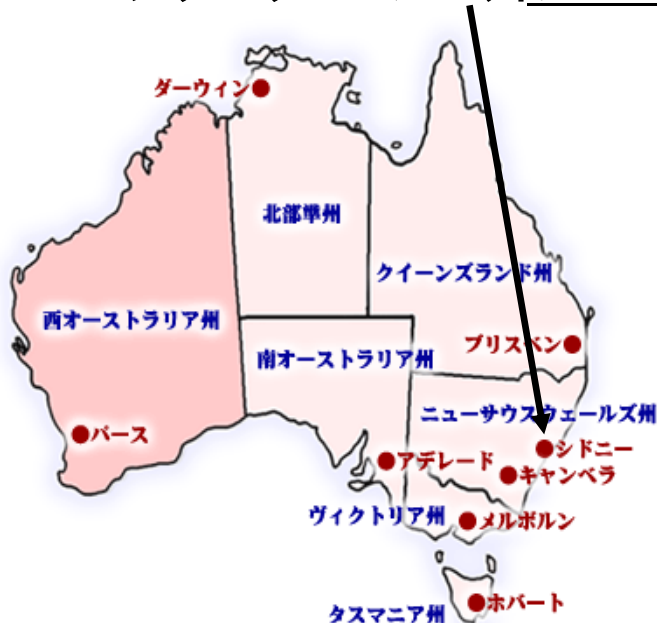
【親善大使海外派遣事業】

オーストラリア連邦

ニューサウスウェールズ州シドニー

シンガポール共和国

シンガポール市



表紙写真説明

上段左：シドニー現地校でのPR活動

上段右：シドニー現地校での集合写真

下段左：ダンディ親善大使使節団お別れ会

下段右：デトロイトでメジャーリーグ観戦

令和元年度燕市姉妹都市子ども交流事業・海外派遣事業報告書 目次

はじめに燕市長 鈴木 力	3
ごあいさつ 燕市教育長 遠藤 浩	4
【姉妹都市子ども交流事業】	
ダンディ使節団滞在日程	7
ダンディ使節団団員感想	9
ダンディ使節団団員アンケート	17
ダンディ使節団引率者報告	19
【Jack & Betty プロジェクト海外派遣事業】	
海外派遣事業日程	21
親善大使活動報告	23
親善大使体験報告	47
親善大使アンケート	59
海外派遣事業引率者報告	62
「広報つばめ」令和元年10月1日号掲載記事	65

はじめに

燕市長 鈴木 力



姉妹都市こども交流事業として、令和元年7月29日から9日間の日程で、アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村へ、本市から4人の中学生を使節団として派遣しました。

ダンディ村での歓迎会では、本事業にご尽力いただいている、新潟ダイヤモンド電子の芦谷会長と池永取締役からもご出席いただき、現地でお世話になる方々から温かく迎えていただきました。使節団は、現地のホストファミリーやホストスチューデントの皆さんと一緒に、ダンディの文化、アメリカの文化について学んだり、使節団が日本食を作ってふるまい、日本の文化を教えたりするなど、体験をとおして、積極的な交流を行うことができました。

また、7年目を迎えた Jack & Betty プロジェクトの海外派遣事業では、6月の英語スピーチコンテストで選出された12人の親善大使を、8月にオーストラリアのシドニーとシンガポールに派遣しました。

シドニーでは、ホームステイをしながら現地の学校に通い、現地の小学生と一緒に英語で様々な教科の授業を受けました。また、オーストラリアの自然や環境、文化の違いを学びながら、派遣の目的である「燕市のPR活動」をしっかりと行い、産業や文化、伝統技術などを紹介し、相互交流を図ることができました。また、シンガポールでは、新潟県人会の皆様と交流し、シンガポールの地理や歴史、文化等を教えていただくとともに、英語を身に付けておくことの大切さを学ぶことができました。

これら、2つの事業は、いずれも燕市の関係者からの多大なるご支援とご理解、そして、派遣先の受入れがあって実現できるものです。本事業にご協力をいただいている事業者、企業の皆様にご心から感謝申し上げます。

今後も、燕市の将来を担い、国際社会で活躍できる人材の育成に力を注いでまいります。また、国際交流事業を通して、市民の皆様の国際理解が深まるとともに、魅力ある燕市を世界に発信することができるよう、なお、一層の充実を図っていきたいと考えております。引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

ごあいさつ

燕市教育長 遠藤 浩



燕市教育委員会では、以前から、国際交流事業を継続する中で、限られた人数ではございますが、毎年、確実に海外経験の機会を提供させていただき、国際感覚豊かな人材育成に取り組んでまいりました。

さて、姉妹都市子ども交流事業では、今年度は派遣事業といたしまして、中学生4人、引率者1人を派遣しました。また、Jack & Betty プロジェクト、親善大使海外派遣事業では、12人の児童生徒をオーストラリアとシンガポールに派遣いたしました。

姉妹都市子ども交流事業では、昨年度、本市を訪問したダンディ使節団の皆さんが中心となって迎えてくださり、ホームステイを体験しました。使節団の中には、昨年度、本市で交流した生徒もあり、1年ぶりの再会を喜んでいました。今回の派遣も、燕市姉妹都市交流の一層の発展につながり、使節団の生徒たちは、将来、ダンディ村と燕市をより強く結ぶ推進役になってくれることと期待しています。

親善大使海外派遣事業では、県内各所で気温が40℃以上を記録した真夏の日本とは反対に、気温が15℃前後という少し肌寒い晩冬のオーストラリア、シドニーでのホームステイでした。帰国報告会では、ホストファミリーや現地でできた友人、海外の方々との交流をとおして、英語の力だけでなく、たくさんのことを学び、派遣事業の目的である燕市のPR活動に真剣に取り組んだ報告を受けました。シンガポールでは、新潟県人会の方々へのPR活動や交流を通して、海外から見た新潟のよさや、燕のよさを再確認できたと聞きました。

親善大使には、これからも自分自身の目標を高くもち続け、また親善大使として、この経験を多くの人たちに伝え、学校や地域、そして様々な場面でリーダーとしても活躍してくれることを期待しております。

この国際交流事業にご協力くださった事業者の皆様、保護者、地域の皆様に心から感謝申し上げます。今後も、これらの事業の充実と発展に取り組み、燕市の子どもたちの人材育成に取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

【燕市姉妹都市子ども交流事業】

令和元年度 燕市姉妹都市子ども交流事業（アメリカ・ダンディ村）日程

月 日	日	程
7月29日 (月)	7:50 燕三条駅集合 8:37 燕三条駅出発 10:28 東京駅到着 11:03 東京駅出発 11:57 成田空港到着 15:15 成田空港出発 (日付変更線通過) 14:07 デトロイト空港到着 17:00 歓迎会（ダンディ高校） 18:30 各ホストファミリー宅へ	(ホームステイ)
7月30日 (火)	9:00 ダンディ村役場訪問 10:00 ダンディ消防署・ダンディ警察署見学 11:00 ダンディ村歴史博物館見学 12:00 ダンディ村ダウントOWN散策 13:00 カベラス（アウトドア専門店）見学、昼食 日本の家族へポストカードを郵送 16:00 モンロー・カウンティ・フェア訪問 18:00 デモリション・ダービー観戦	(ホームステイ)
7月31日 (水)	10:00 グリーンフィールド・ヴィレッジ見学 12:30 グリーンフィールド・ヴィレッジ園内で昼食 14:00 ヘンリー・フォード博物館見学	(ホームステイ)
8月1日 (木)	9:00 リバーレイズン国立バトルフィールド公園見学 (インディアンの歴史をテーマにフィールドワーク) 11:00 モンロー博物館見学 13:30 日本食パーティーの準備 17:30 日本食パーティー（会場：ダンディ高校） 日本食と燕市の紹介 ダンディ高校見学	(ホームステイ)
8月2日 (金)	終日ホストファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月3日 (土)	終日ホストファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月4日 (日)	終日ホストファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月5日 (月)	10:00 デトロイトのリバーフロント公園を散策 (川越しにカナダのビル街を眺望) 12:00 GM（ジェネラルモーターズ）本社で昼食、見学ツアー 14:00 メジャーリーグ、デトロイトタイガースの本拠地コメ リカパークまで散策 18:00 タイガース戦を観戦	(ホームステイ)

月 日	日	程	
8月6日(火)	11:30 14:30 15:30 18:00	オハイオ州トレド市内のショッピングモールで昼食 トレド動物園のギフトショップへ (雨天のため、動物園見学できず) ドリームキャッチャー制作体験(ブレスラーさん宅) ホストファミリーとお別れ会(ベネットさん宅) 日米中学生によるバドミントン対決	(ホームステイ)
8月7日(水)	7:00 9:00 10:00 12:15	集合、ボブ・エヴァンスにて朝食 ダンディ村出発 デトロイト空港着 デトロイト空港発	(機内泊)
8月8日(木)	(日付変更線通過) 14:05 15:14 16:14 16:40 18:35	成田空港到着 成田空港出発 東京駅到着 東京駅出発 燕三条駅到着	



燕と Dundee のよい架け橋に

燕中等教育学校 3年

北澤 春花

「次は私がダンディ村に行く。」一年前に、ダンディ村の派遣団員のオードリーと出会い、ホストファミリーになったときから強く望んでいたことでした。なので、派遣団員に選ばれてダンディ村へ行くことが決まり、とても嬉しくて楽しみでワクワクしていました。

デトロイト空港に着いたとき、アメリカにきた実感はありませんでしたが、私のホストファミリーを引き受けてくれたオードリーや、去年燕市にきた使節団のみんなと再会できて嬉しかったです。



▲ホストファミリーと
ミシガン湖へ!!

私はホストファミリーやオードリーの友達に、日本からのお土産の一つとして日本の駄菓子を渡しました。みんなで集まって遊んだときやキャンプへ行ったときにアメリカのお菓子と比較しながら一緒に食べました。私が日本の駄菓子を出した瞬間、みんなの目が輝いて興味津々な様子でした。喜んでもらえて嬉しかったです。私が食べたアメリカのお菓子は日本とは違う甘さとカラフルさで、食べたことのない味がしました。日本のチョコレートや、ラーメンをもとに作られた駄菓子は人気がありましたが、干し梅や煎餅は不評でした。塩味の煎餅は魚の味に感じたそうです。日本とアメリカの食文化の違いを感じて、みんなの感想が面白かったです。

現地では、たくさんの施設を見学し、いろいろなことを学ぶことができました。中でも、デトロイトで見た半旗が最も印象に残っています。ホストファザーのエリックさんが「最近、銃乱射事件で多くの人々が亡くなったからだよ。」と教えてくれました。その言葉

を聞いて、現実を突き付けられたようでとても悲しくなりました。テレビでしか見たことがないことが、この世界で本当に起こっているのだと実感しました。他にも、ダンディ村の役所やヘンリー・フォード社の博物館、メジャーリーグなどを日本や燕市との違いを比較しながら見学することができました。日本食パーティーでは自分たちで作った料理をふるまい、来てくれた方々に満足してもらえて嬉しかったです。休日にはホストファミリーがキャンプへ連れて行ってくれ、ミシガン湖で泳ぎました。そこで見た夕日がとても綺麗で感動しました。

心の底から「住みたい!!」と思ってしまうほど素敵なダンディ村。私は本当にダンディ村とみんなが大好きです。私の次の夢はダンディ村にもう一度行くこと。そしてまたみんなに会って今よりも高い英語力で話すことです。夢に向かって、英語の勉強を一生懸命に取り組んでいきたいです。とても充実した実りある 10 日間を過ごすことができました。一生ものの経験をし、自分のふるさとの姉妹都市について学べたことをとても誇りに思います。私にとってダンディ村での出会い、思い出、経験は宝物となりました。最後に、私たちに素晴らしい機会を与えてくださった全ての方々に感謝しています。そして、ダンディ村の方々、派遣団員の3人、小林さんにも感謝しています。本当にありがとうございました。



▲日本のおやつと友達と!!



▲向こう側、カナダだって!!

「目標と成果」

行き先	アメリカ合衆国・ダンディ村	氏名	北澤 春花
-----	---------------	----	-------

1 国際交流事業（海外派遣）に参加するにあたって、目標を決めましょう。

目標① 燕市との違いを確認しながら、ダンディ村のいいところをたくさん見つけてきたいです。

目標② 自分の殻を破り、たくさんのことを吸収したいです。自分から何事にも積極的に挑戦し、10日間を全力で楽しみたいです。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 達成できました。燕市よりも自然豊かで人がとても優しいなど、ここに書ききれません。「ダンディ村に住みたい!!」と心の底から思えるステキな村です。私はダンディ村が大好きです。

目標②について 達成できました。見るものの全てが新鮮でとても楽しかったです。アメリカの文化、自分のふるさと燕市の姉妹都市について学ぶことができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

私にとってどれもステキな思い出です。正直、1番は決められませんが、去年の夏、燕市に来たみんなと再会できたことも嬉しかったです。またとても優しく明るくてフレンドリーなダンディ村のみんなが大好きです!! ダンディ村での出会い、思い出、経験は私にとって宝物です。本当に夢のような10日間でした。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

もっと英語の勉強を頑張りたいです。留学にも挑戦したいです。そしていつかダンディ村へ行って今よりも高い英語力でもう1度、今回出会った人たちと話し、感謝を伝えたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

この10日間を過ぎせるのはたった1度きり!! 大事なことはとにかく「楽しむこと!!」そして、「感謝」を忘れないことだと思います。

Enjoyed my homestay

燕中等教育学校 2年

渡辺 なずな

私は燕市交流事業で 10 日間、姉妹都市であるアメリカミシガン州のダンディ村に行きました。初の渡米で私の心は期待でいっぱいでした。

半日に及ぶフライトと時差の違いで、デトロイト空港に着いたとき、頭痛などで体調を少し崩してしまいました。しかし、ホストファミリーと会い、ホストマザーとホストファザーが私の体調を気にかけてくれて、気持ちがとても楽になりました。また、家に着くとおじいちゃん、おばあちゃんが笑顔で迎えてくれてとても嬉しかったです。

私は今回の交流事業で多くのことを学び、感じることができました。フォード博物館では、アメリカの歴代大統領が乗った車や、リンカーン氏が最後に座った椅子など、アメリカの歴史を深く学ぶことができました。また、メジャーリーグ観戦はとても迫力がありました。チームのデトロイトタイガースの本拠地であるコメリカパークへ行ってきました。私は野球を見るのが好きなのですが、今回の試合は一秒も目が離せない試合でした。タイガースは負けてしまいましたが、生のホームランや良いピッチング、バッティングを見ることができてとても楽しかったです。また、日本とアメリカの応援やプレイスタイルの違いが分かりとても楽しめました。

ホストファミリーと過ごした休日は別格でした。キャンピングカーに乗って、様々な場所に行きました。中でも 1 日目に行ったマキナック島は印象深かったです。そこは五大湖のうち、ヒューロン湖に浮かぶ島の 1 つで、車が入ることができない珍しい島です。車が立ち入れない代わりに馬車や自転車、徒歩で移動します。私はホストファミリーと一緒に自転車で島を一周しました。時々休憩を挟んだりしましたが、疲れは全くなかったので、帰りにホストマザーに「12 マイル以上走ったんだよ」と言われたときは驚きました。また、ホストファミリーに日本からお菓子やストラップのプレゼントを渡したとき、とても喜んでもらえて嬉しかったです！一緒にお菓子を食べたり、説明をしたりして、さらにホストファミリーとの絆を深めることができました。

交流期間のどの 1 日を見ても思い出のある最高の日ばかりでした。10 日間という人によっては長いと思われる期間でも、私にとっては一瞬にして終わってしまい、ホストファミリーと別れるのがとてもつらくて悲しかったです。あと半年はアメリカにいたいと思う程でした。しかし、10 日間で多くの英語を話し、言語を超えた人とのつながり、交流ができたことはとても良い経験となりました。このことを糧にし、自分の将来に生かせるようにしたいです！

今回の交流事業に携わってくれたみなさんには、感謝してもしきれないです。本当にありがとうございました!!



▲ホストファミリーと湖へ。
とてもきれいで大きかったです！



◀大型アウトドア店 cabela's へ！

「目標と成果」

行き先	アメリカ合衆国・ダンディ村	氏名	渡辺 なずな
-----	---------------	----	--------

1 国際交流事業（海外派遣）に参加するにあたって、目標を決めましょう。

目標① 分からないことがあればすぐに質問し、その場で解決できるようにする。積極的に質問や話をして、コミュニケーションをとる！

目標② 日本とは違う文化・歴史を学び、たくさん楽しんでくる！！

2 目標は達成できましたか？

目標①について フォードや自分の分かる単語をつなげて、伝えることができた。

目標②について フォード博物館では、アメリカの乗り物の歴史や文化などを学ぶことができた。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

最も思い出に残ったことはホストファミリーと過ごした休日です。キャンプ場で白みながら、マッキナック島やキャスルロック、シルバーレイクの砂丘に行きました。中でもマッキナック島では自転車で島を一周したり、山に登ったりして自然に触れ合うことができました。また、キャンプでホストファミリーが作ってくれた食事がとてもおいしかったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

私は将来ツアーコンダクターになりたいので、自分の英語力を上げられるように頑張りたい。そして、日本に来る外国人観光客に対応する案内ボランティアにも挑戦してみたい。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

単語をたくさん覚えて理解することが大切だと思います。英文が分からなくても、単語をつなげて伝えようとする努力が必要です。また、曖昧な表現は外国人には上手く伝わらないので、Yes・Noをはっきりさせて伝えることも重要です。

DUNDEE 滞在記

燕中等教育学校 3年

解良 藍水

私は、この11日間でたくさんの思い出を作ることができた。

最初は、とても緊張した。自分のホストファミリーと会うまでは、「10日間大丈夫かな。」

「自分の英語は伝わるのかな。」と不安があった。しかし、この事業のコーディネーターを務めてくださっているデιβさんや私のホストファミリーのマディソンが積極的に話しかけてきてくれたおかげで、不安は徐々になくなっていった。しかし、マディソンたちが話す英語のスピードが速く、何を言っているのか聞き取れなかった。2、3日すると、次第に耳が慣れていったのか、聞き取れるようになった。このときは、本当にうれしかった。それからは、とても楽しかった。特に、4日目の日本食パーティーは楽しかった。予定では、焼きそば、卵焼き、唐揚げを作る準備をしていたが、現地にカレールウを発見したため、急きょ、カレーライスも作るようになった。また、作り始める時間が予定よりも遅れたため、50人分を作ることができるか心配だったが、パーティー開始時刻の30分前には作り終えることができて良かった。私は、焼きそばと唐揚げを担当した。なずなさんと一緒に作り、何とか時間までに作り終えることができて本当に良かったと思った。このときの達成感はすごかった。日本食パーティーが終わってから、マディソンたちがパーティー会場だった、ダンディ高校を案内してくれた。日本の学校とは違い、教室の数がすごく多かった。さらに、体育館の広さが半端なく大きかった。



▲America 到着！



▲ホストファミリーとマキナック島！

休日は、ダンディ村から車で5時間のところにある「Straits State Park」というミシガン州の州立公園でキャンプをした。私は、一家に一台はキャンピングカーを持っていることがアメリカの常識と聞いて、とても驚いた。キャンプではバーベキューをして楽しんだ。マキナック島という島にも行った。とてもきれいな海に囲まれた島だった。島一周約12.8 kmをサイクリングした。サイクリングはとても疲れたが、みんなで食べたアイスはとてもお

いしく感じた。これもまた、いい思い出になった。他にも、たくさんの思い出がある。デトロイト空港でお土産をつめ込みすぎて重量オーバーになり、100ドルを払わなければいけなくなってしまったり…などまだまだたくさんある。

最後に引率者の小林さん、この事業に行くことに賛同してくれた母、私を受け入れてくれたマディソン一家、そして、春花、梨花子、なずなさん本当にありがとう。



▲ダンディ村の議員の気分！！

「目標と成果」

行き先	アメリカ合衆国・ダンディ村	氏名	解良 藍水
-----	---------------	----	-------

1 国際交流事業（海外派遣）に参加するにあたって、目標を決めましょう。

- 目標① 私はオーストラリアと積極的にコミュニケーションをすることです。
私は英語が苦手なので、この国際交流事業で色々と事を知りたい。英語への苦手意識を克服したいです。
- 目標② 燕市のことを知ってもらいたい。燕市には製造業銅器や洋食器などの有名な産業があるので、それらの魅力も紹介できたいです。

2 目標は達成できましたか？

- 目標①について 最初、オーストラリアの英語の話しスピードが速く、聞き取れなくて、コミュニケーションが上手く出来ませんでした。しかし、3日目ぐらいには何となく聞き取れるようになりました。そのおかげでコミュニケーションがとれるようになりました。達成できたと思います。
- 目標②について 日本代表チームのプレゼンを通して、他のオーストラリア人ももちろん、他の3人のオーストラリア人達にも伝える事ができたと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

一番思い出に残ったことは、他のオーストラリアの人達と、お揃いのタイガースTシャツを着て野球観戦をしたことです。会場だったアメリカパークはとても良かったです。
私は、プロ野球を生で見ることがなかったので、とても良い思い出になりました。
他にも、オーストラリアと一緒にキャンプをやったり、海に行ったりしました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

実際に行動して、英語が全然できるようになりたい。もっともっと勉強したいです。
そして、オーストラリアでダンディ村に行きたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

飛行機に乗っている時間が長いので、首マクを持っていった方がいいと思います。
(私は、持っていなくて首が痛くて困ったので)
持っていって快子で爆睡しました。

私がアメリカでした EXPERIEBCE

燕中等教育学校 3年

七里 梨花子

私は、今回の派遣でたくさんの経験ができました。

まず、2日目に行ったカベラスではハンバーガーを食べました。それはとてもおいしかったです。そして、そこで初めてアーチェリーをしました。意外に難しかったですが、楽しかったです。

3日目は、昔の建物がたくさん並んでいる所へ行きました。最初に汽車に乗りました。蒸気が多くてビックリしました。その後、息を止めてくぐり抜けると願いが叶う、と言われているトンネルに行きました。無事にくぐり抜けることができて良かったです。

4日目はカヌーがある所へ行きました。そこで本物の毛皮を触りました。少し怖かったです。その後、日本食パーティーの準備をしました。私は主に卵焼きを準備しました。最初はあまり上手く巻けませんでした。回数を重ねる度に上手くなっていることが実感できました。そして、本番の時間になったとき、たくさんの人が来てくださり、たくさん食べてくれて嬉しかったです。ホストファザーに箸の持ち方を教えてあげました。

週末1日目は、フェスティバルやパレードで使われる装飾品を作っている所へ行きました。私の好きな柄や色合いのものが多くてとてもかわいかったです。その後、みんなでトランポリンなどをして遊びました。



▲クリスマスショップ

週末2日目はとても大きなクリスマスのお店へ行きました。1つのものでもたくさん種類があってビックリしたのを覚えています。その後、アメリカの古い街を見て回りながらノーム探しをしました。無事に全てのノームを見つけてボールペンをもらいました。その後、そこでプレッツェルを作りました。おいしかったです。ディナーはミシガン州の伝統のパイで、これもおいしかったです。

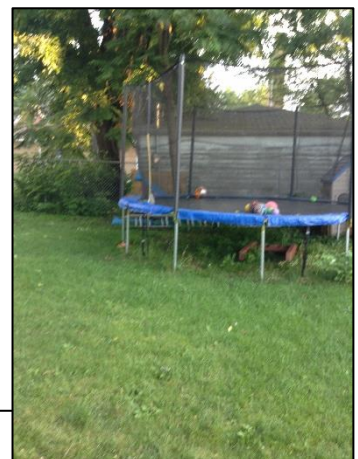
週末3日目は水着に着替えて、ホームステイ先の庭で水遊びをしてとても楽しかったです。ディナーがとても豪華で、私の好きなものを作ってくれたので嬉しく、おいしかったです。

そして、アメリカ最終日前日、みんながお別れパーティーを開いてくれました。とても豪華な食事ばかりでお腹もいっぱいになった頃、私たちのホストバディと一緒にバドミントン対決をしようと誘ってくれました。対決は負けてしまいましたが、良い思い出になりました。

私は、今回の10日間で多くを学ぶことができました。それは、感情を表に出すこと、分からないことをきちんと聞くことです。今回の経験を生かして、学校の勉強でも分からない所を放っておかずに、きちんと聞いて理解できるようにしたいです。



▲アーチェリー初体験



庭のトランポリン▶

「目標と成果」

行き先	アメリカ合衆国・ダンディ村	氏名	七里 梨花子
-----	---------------	----	--------

1 国際交流事業（海外派遣）に参加するにあたって、目標を決めましょう。

目標① 自分のホストファミリーはもちろん、他のホストファミリーのちや町の人とコミュニケーションをとる。

目標② 自分達の文化を発信し、現地の文化を持ち帰る。

2 目標は達成できましたか？

目標①について お別れパーティーの時、私たちのホストバディと私たちがバドミントンで対決しました。そこで、自分以外のホストバディと距離を縮められた気がします。

目標②について ホストファミリーにつれていってもらった所でアメリカの文化を知ることができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーのリアムとセセリーの3人でホストファミリーの庭で遊んだ事です。ホストファミリーの家にはトランポリンがありそのトランポリンは上から水が出るようになっていました。なので3人で水着になって遊びました。一度気温が暖かかったのでも気持ちよかったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

これからどんどん日本の所に訪れる外国人は増えると思うのでそういった人達に道などを聞かれたら現地の方の英語を思い出して答えていきたいと思っています。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

他人の家に3泊まり慣れる事だと思います。そうした方が現地での生活に慣れやすいと思います。

燕市国際交流事業参加者アンケート(まとめ)

派遣先	学年	性別
アメリカ合衆国 ダンディ	中学2年1人、3年3人	女4

Q1 海外派遣はどうでしたか？

①とてもよかった 4人 ②よかった ③ふつう ④よくなかった

- その理由は？
(具体的に)
- ・ホストファミリーを含め、ダンディ村の人がとても優しく、楽しい日々を過ごすことができた。
 - ・たくさんのことに挑戦することができた。
 - ・とても充実した10日間だった。
 - ・見るもの全てが新鮮でたくさん学ぶことができた。
 - ・外国人と接することがなかなかないので、貴重な経験ができた。

Q2 日程はどうでしたか？

① ややきつかった ②きつかった ③やや楽だった 1人 ④楽だった 3人

- 体調や精神面で特につらいと感じたときはありましたか？あれば具体的に書いてください。
(飛行機、英語、食事、日程など)
- ・時差ボケでしばらく頭痛が続いた。
 - ・とても充実していて、あっという間でした。
 - ・飛行機の気圧の変化がよかった。

Q3 期間はどうかでしたか？

① やや長かった ②ちょうどいい 1人 ③やや短かった ④短かった 3人

Q4 海外派遣の中で、良かった場所や活動は何ですか？ 「特に良かった」こと1つに◎、「良かった」こと4つ以内に○を記入してください。また、「良くなかった」ことがあれば、3つ以内のものに△を記入してください。

歓迎会

ダンディ村役場訪問 ○…2人

ダンディ村歴史博物館

カベラス (アウトドア専門店) ○…2人

モンロー・カウンティ・フェア見学

グリーンフィールド・ヴィレッジ博物館

フォード博物館見学

レイズン川国立公園

モンロー博物館

日本食のサービス ◎○△…各1人

燕市紹介プレゼン ○△…各1人

デトロイト市内散策 ○…1人

GM 社見学 (ランチ)

メジャーリーグ観戦 ◎○…各1人

オハイオ州トレド市訪問

ドリームキャッチャー作り体験

ショッピング △…1人

お別れパーティ ◎…1人、○…2人

ホストファミリーと過ごした週末 ○…1人

その他 ○…1人

[・すべてが良かったです。]

Q5 ホームステイで良かったことを書いてください。また、困ったことがあれば、具体的に書いてください。また、困ったことを解決するために自分がしたり、事前に準備したりしておくべきことを具体的に書いてください。

- ① 良かったことは？
- ・夜、みんなで外に出て蛍を見たり、一緒に折り紙を折ったり、休日にキャンプをしたこと。
 - ・1年前に受入れた家庭の子どものところでホームステイできたこと。
 - ・すべてが良かった。
 - ・ホストファミリーがスケジュール管理をしてくれたこと。
- ② 困ったことは？
- ・次の予定や持ち物が分からないときがあった。
 - ・荷物がスーツケースに入りきらなかった
 - ・朝ごはんやシャワーを使っている時間がわからなかった。
- ③ 自分のしたことや事前の準備は？
- ・事前にたくさんメールをした。
 - ・自分でできることは何か考え、すぐに行動した。
 - ・電子辞書を持って行った。
 - ・最後の日に、自分が泊まった部屋の机の上に感謝の手紙を置いてきた。

Q6 海外派遣で、とまどったことや不安に思ったこと、疑問に感じたことなどがあれば、具体的に書いてください。

- ・英語力
- ・ダンディ滞在中、外出先での食事を含め、たくさんの物を買ってもらったこと。（もう少し、自分たちで支払うべきだった。）

Q8 海外派遣について意見や感想、要望などがあれば自由に書いてください。

- ・滞在期間をもっと長くしてほしい。
- ・またホストファミリーに会いたい。
- ・ホストファミリーと再会できる機会がほしい。ダンディ村との縁を切りたくないの以来燕する子たちとの交流の場を設けてほしい。
- ・とても充実した11日間だった。日本ではできない経験がたくさんできた。

Q9 ホストファミリーのお土産として、何をどれくらい持っていきましたか。具体的に書いてください。

- | | | |
|--------------|------------------------|----------|
| ・燕産のステンレスカップ | ・漢字が書かれたショットグラス | ・漆のお皿 |
| ・扇子 | ・和柄ポーチ | ・漫画のTシャツ |
| ・手ぬぐい | ・ストラップ | ・折り紙 |
| ・付せん | ・イラスト入りティッシュ（侍、相撲） | ・和菓子 |
| ・駄菓子 | ・スナック菓子（じゃがりこ、ハッピーターン） | ・麦茶 |
| ・インスタントみそ汁 | | |

引率者報告

燕市教育委員会 学校教育課
係長 小林 麻砂子

ほとんどの派遣団員が初めての海外旅行でした。心配や戸惑いもあったと思いますが、大きなトラブルもなく、約12時間のフライトを経て派遣団員はダンディ村に到着しました。

初日の歓迎会では、ホストファミリーの皆さんがウエルカムボードで出迎えてくれました。事前にメールでのやり取りをしていたので、初めて会う感じではなく安心している様子が見られたのが印象的でした。また、この姉妹都市交流事業にご尽力いただいている、新潟ダイヤモンド電子の芦谷会長及び池永取締役からご出席いただき、姉妹都市交流が始まった経緯をお話していただきました。

現地ではホストステューデントの皆さんと一緒に、施設見学やアクティビティ等を通して、楽しくアメリカ文化を体験しながら学んできました。

日本食ディナーでは、自分たちで献立を決めて料理を作り、ホストファミリーの皆さんや関係者の皆さんに食べていただきました。派遣団員のほとんどが調理未経験者でしたが、皆さんが協力して時間内に料理を作り終えることができました。このことが派遣団員の自信になり、その後の積極的な交流活動につながったのだと思います。

日々のホストファミリーの皆さんの力強いサポートのおかげもあり、大きなけがや病気もなく、沢山のかけがえのない思い出ができました。

派遣団員の皆さんは、実際に行ってみたり会ってみたりして思ったこと、感じたことがそれぞれあることと思います。また、今回の派遣を通して繋がった仲間との関係を大切にしていってほしいと思います。これからも燕市と世界をつなぐ架け橋となって羽ばたいてくれるよう、期待しています。

最後に、派遣団員の体験を温かくサポートしてくださった関係者の皆様に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



【Jack & Betty プロジェクト海外派遣事業】

令和元年度 親善大使海外派遣事業日程

月 日	日	程
8月 6日 (火)	10:29 燕三条駅出発 13:30 羽田空港到着 17:05 羽田空港出発 23:05 シンガポール空港 (経由地) 到着	(機内泊)
8月 7日 (水)	00:45 シンガポール空港 (経由地) 出発 10:25 シドニー空港到着 12:30 シドニー市内へ (ボンダイビーチで昼食) 15:30 現地校 到着、ホストファミリーと対面	(ホームステイ)
8月 8日 (木)	午前 現地校にて授業開始 フリンダーズパブリックスクール (特別英語授業) 午後 現地校の授業に参加	(ホームステイ)
8月 9日 (金)	1日 シドニー市内見学研修 現地企業訪問 (ジェットロ) ハーバーブリッジ、オペラハウス等	(ホームステイ)
8月10日 (土)	終日ホストファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月11日 (日)	終日ホストファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月12日 (月)	午前 現地校にて英語レッスン 午後 現地校の授業に参加 晩 スクールディスコに参加	(ホームステイ)
8月13日 (火)	午前 現地校にて英語レッスン 午後 現地校の授業に参加	(ホームステイ)
8月14日 (水)	午前 現地校にて英語レッスン 午後 燕市 PR 活動 (プレゼンテーション、歌)	(ホームステイ)
8月15日 (木)	06:00 現地校出発 11:00 シドニー空港出発 17:30 シンガポール空港到着 19:30 ホテル着 (夕食)	(ホテル泊)
8月16日 (金)	1日 シンガポール市内見学 マーライオン公園、アラブ人街、インド人街 チャイナタウン (寺院)、富の噴水 ガーデンズバイザベイ 18:30 新潟県人会との交流、 PR 活動 (歌、プレゼン、スピーチ) 20:30 ホテル到着	(ホテル泊)
8月17日 (土)	朝 ホテル出発 07:00 シンガポール空港到着 09:25 シンガポール空港出発 17:30 成田空港到着 20:24 東京駅出発 22:23 燕三条駅到着	

親善大使活動報告

1 PR活動の内容

(1) プレゼンテーション

- ① 燕市の自然・地理・交通・農業
- ② 燕市の学校教育
- ③ 燕市の金属加工業
- ④ 燕市の観光・名所・名産品

(2) 文化紹介

- ① つばめっ子かるた（英語版）
- ② 燕クイズショー
- ③ 折り紙
- ④ 歌（国歌）

(3) 表敬訪問

シンガポール新潟県人会

2 場所・対象者・期日

No.	場所	期日
(1)	フリンダーズパブリックスクール（各クラス：折り紙等）	8月13日（火）
(2)	フリンダーズパブリックスクール（全校集会）	8月14日（水）
(3)	シンガポール新潟県人会	8月16日（金）



最高の思い出

燕市立燕西小学校 5年 山崎 恋依

私は、初めてのホームステイをととても楽しみにしていました。事前の研修会で親善大使のみんなと仲良くなり、早くオーストラリアに行きたい気持ちでいっぱいでした。

しかし、オーストラリアに到着して、ホストファミリーの家に行くときに急に不安になりました。今まで経験したことのないほど緊張しましたが、すこしずつ新しい場所に慣れていきました。ホストファミリーや先生が優しくしてくれて、自分の気持ちを切り替えることができましたからです。ホストファミリーに動物園やショッピングモールやボーリングなど、色々なところに連れて行ってもらい、たくさんの思い出を作ることができました。ホストマザーは私が眠るときはいつも、「Sleep Well(ゆっくり休んでね)」と声をかけてくれて、安心して眠ることができました。

現地の学校に通ったこともいい経験になりました。英会話クラスでは、いろんな子が私に話しかけてくれてとても嬉しかったです。うまく自分の気持ちを伝えられないときは、ジェスチャーなどを使い、いろいろな工夫をしながらコミュニケーションをとりました。また、男女関係なく、すれ違うときに「hello」と挨拶できたことも嬉しかったです。英会話クラスや現地校の子たちとの交流で、もっと英語を上手になりたいという気持ちが強くなり、ホストファミリーにも積極的にコミュニケーションをとりました。分からない単語は辞書で調べたりしながら、気持ちを伝える努力をしました。ホストファミリーは、私の言葉を聞いて、理解しようとしてくれました。そして、私は生活習慣や文化の違いを知ることができました。

ホストファミリーとのお別れはとても寂しかったです。感謝の手紙を渡したら、泣いて喜んでくれて、私は感動しました。本当の家族のように、私に親切にしてくれてとても感謝しています。

私は海外研修でたくさんのことを学びました。英語を上達させるには、恥ずかしがらずに話すこと、わからないときは正直に相手に聞き返すことが大切です。うまくできなくても、前向きにベストを尽くすことが一番大事なことだと気が付きました。これは英語を学ぶだけでなく、普段の生活でも同じことです。これからも、今回学んだことを活かして、英語の勉強を続けていきたいです。今回、海外で短い期間でしたが生活をしてみて、日本での生活のありがたみが分かりました。日本のよさをたくさん知ることができました。それと同時にオーストラリアの魅力を学ぶことができました。

最後に、助けてくださった先生方、家族、そして燕市や企業の方々など、このプログラムに携わった皆様に感謝を申し上げます。私が親善大使として海外に行くことができたのも、皆様からの強力な支援があったからです。たくさんのご支援、本当にありがとうございました。



ホストマザーと共に



コアラと一緒に

My Best Memory

Koyori Yamazaki

5th grade Tsubame-nishi Elementary School

I was looking forward to my first homestay very much. I became friends with other goodwill ambassadors through prior workshops, and felt that I wanted to go to Australia as soon as possible.

However, once I arrived in Australia, I suddenly became uneasy when I went to my host family's house. I was more nervous than ever in my life, but little by little, because my host family and teachers were kind to me, I got accustomed to the new place. My host family took me to many places, such as a zoo, a shopping mall, and a bowling alley. All of them became great memories for me. Every night, when I went to bed, my host mother would tell me, "Sleep well". So, I was able to sleep without any worries.

Going to the local school was also a good experience. In the classes, I was very happy that a lot of classmates came and talked to me. When I could not express myself well, I tried all kinds of methods to communicate, such as using gestures. I was also glad that I could say "hello" to everyone both men and women, when I met them. The more I interacted with the other goodwill ambassadors and classmates at the local school, the more I wanted to improve my English, so I started communicating with my host family more actively. For instance, while looking up a word which I did not understand in a dictionary, I tried hard to express myself non-verbally. For their part, my host family, thankfully, tried very hard to understand what I was saying. Because of this, I was able to learn the differences in lifestyle and culture between Japan and Australia.

It was very sad to say "goodbye" to my host family. When I gave them my thank-you letter, I was surprised that they cried with happiness. I am thankful to them that they were so kind to me, as if I were their actual family.

I learned a lot from this experience abroad. First, to improve English communication, it is important to talk without being shy and to candidly ask others to repeat themselves when I do not understand. I found that, even if I could not do well, the most important thing is to have a positive attitude and try my best. This is important not only for learning English, but also for everything in my daily life. I hope to take advantage of this experience and keep studying English. By spending time overseas, even though it was a short time, I started to appreciate my life in Japan. I realized many good things about Japan. At the same time, I was able to learn the positives of life in Australia.

At last, I want to thank to my teachers, my family, companies in Tsubame, and the many others involved in this program. I was able to study abroad as a goodwill ambassador because of your strong support. Once again, thank you very much for all your support.

最高のホストファミリー

吉田小学校 5年 本田 優月

僕は、初めて家族と離れてホームステイをしました。出発前は、自分の英語が通じるかどうか、ホストファミリーと仲良くなれるかという不安がありました。ホームステイ初日は、英語がうまく通じず、不安と寂しさで泣いてしまいました。そんなときにホストマザーのケリーが明るく話しかけてくれ、「私たちがあなたを守るから泣かないで」と励ましてくれました。そのおかげで次の日からは積極的に話しかけ、ジェスチャーを交えながら段々とコミュニケーションがとれるようになりました。

現地の学校では、午前中は英語の授業を受け、午後は現地校の生徒と一緒に授業を受けました。英語の授業ではホストマザーのケリーが先生となりオーストラリアの歴史や文化について学びました。特に印象に残っているのは、オーストラリアの伝統的なお菓子について学んだことです。『ラミントン』というスポンジケーキを実際に食べました。中に入っているチョコレートが甘くておいしく、4つも食べてしまいました。家に帰るとケリーに「たくさん食べたけど、お腹壊していない？」と心配され、少し恥ずかしかったです。休日にはクリケットやボーリングをしたり、ショッピングに出かけたりしました。ホストマザーのケリーは滞在したシェルハーバー市の副市長でした。ケリーは仕事が忙しく、一緒に過ごす時間は少なかったです。ですが、ケリーのおかげでクリケットの試合を観に行ったときに国務大臣と会ったり、シェルハーバー市の議会に参加し市長と話をしたりすることができました。

ホームステイ中、ケリーには、「もっと積極的にになりなさい。」と注意されることもありました。でも、ケリーは、最後にいつも優しい言葉をかけてくれて、僕の不安を取り除いてくれました。お別れのときには寂しくて離れるのがとても辛かったです。ケリーのおかげで普段できない貴重な経験をすることができ、ケリーの家でホームステイができて本当に幸せでした。

シンガポールでは県人会と日本人会の方々と交流をしました。スピーチコンテストのときのスピーチも披露しました。「とても良いスピーチだったよ。」とっていただき自信になりました。

今回の海外派遣で文化や生活の違いなど多くのことを知ることができました。そして、言葉が通じなくても積極的に話しかければいつか通じるようになることがわかりました。これからは自分からいろいろなことにチャレンジしていきたいです。とても貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。



シェルハーバー市長と市議会で



ミセスマッコリーの椅子で

Best Host Family

Yuzuki Honda

5th grade Yoshida Elementary School

I left my family for the first time to participate in this homestay. Before leaving, I was worried about whether I could speak English and get along with my host family. On the first day of my homestay, I didn't speak English well, so I cried out of anxiety and loneliness. At that time, my host mother, Kellie, addressed me cheerfully and encouraged me, saying, "we will protect you, so don't cry." Thanks to her, from the next day onward, I was able to talk more proactively, and I was gradually able to communicate using gestures.

At the local school, I took English classes in the morning, and had classes with the students from the local school in the afternoon. In English classes, my host mother, Kellie, taught us about Australian history and culture. I was especially impressed by what I learned about traditional Australian sweets. I actually ate a sponge cake called "Lamington". The chocolate inside was sweet and delicious, and I ate 4 of them. When I got home, Kellie was worried, saying, "you ate a lot. Don't you have a stomachache?" I was a little embarrassed. I played handball and soccer with the local school students during the break. I was surprised that there were many differences from Japanese school, such as grass on the playground, a court for handball, and a shop in the school. On holidays, I played cricket and bowling and went shopping. My host mother, Kellie, was the vice mayor of the City of Shellharbour, where I was stayed. She was busy, so we didn't spend much time together. However, thanks to her, I met a minister of state when I went to watch a cricket game, and I got to participate in a city meeting and talk with the mayor.

During my homestay, Kelly sometimes suggested I be "more active," but she always spoke kindly to me and relieved my anxiety. So when I said goodbye, I felt a bit lonely, and it was hard to leave. I was able to have a valuable experience, which I wouldn't have been able to have, thanks to her, and I was really happy to have a homestay at Kellie's home.

In Singapore, we interacted with representatives from the Niigata Prefecture and Japanese Associations. We also delivered speeches we had previously given at the Tsubame City Speech Contest. After the speech, they said, "you had a very good speech," which filled me with confidence.

In this trip abroad, I was able to learn many things, such as differences in culture and lifestyle, and I understood that even if I couldn't understand the language, I would be able to understand it someday, if I seized the opportunity to practice whenever it arose. From now on I want to challenge myself in various ways. Thank you very much for giving me a very valuable experience.

挑戦することの大切さ

燕市立小池中学校 2年 川村 帆乃花

私は親善大使として、オーストラリアに行ってきました。私の夏休みは、とても充実したものになり、貴重な時間を過ごしました。はじめは、不安でいっぱいでしたが、この海外派遣で大切なことを学ぶことができました。それはふたつあります。

一つ目は、ホストファミリーの家でのことです。自分の意思を英語で伝えることに時間がかかりすぎてしまいました。簡単な英語とジェスチャーを使って燕市のことや自分の学校について伝えることに挑戦しました。私のホストマザーは私の話を最後まで一生懸命聞いてくれました。日本のお土産を渡したときには、とても喜んでくれました。嬉しかったです。その後はホストファミリーとたくさんのコミュニケーションをとるようになりました。週末には、大型ショッピングモールに行ったり、親戚の子のダンスコンテストを見に行ったりしました。

二つ目は、現地の学校へ行ったときのことです。現地の小学生と一緒に遊んだり、日本語を学んだりしました。ある日、鬼ごっこをしたとき、女の子がルールを説明してくれました。すべての英語を理解することはできませんでしたが、私が理解するまでジェスチャーをいれながら教えてくれました。だから理解することができました。また、「こんにちは」という片言の日本語で話かけてきてくれたのも嬉しかったです。簡単な言葉でも使うことによってより良いコミュニケーションをとることができる気がつきました。だから、これからは簡単な英語を使いながら、たくさん話したいです。

この12日間であきらめずに挑戦することがとても大切だと学ぶことができました。これからの生活に役立たせていきたいです。またたくさんの外国人と交流していきたいです。私はこの夏すばらしい経験をすることができました。先生や家族に感謝したいです。バディーたちが「またオーストラリアに来てね」「私も日本に行ってみたい」と言ってくれて、別れるのはつらかったけどいつかまた会えたらいいなあと思いました。

ありがとうございました。



授業の様子



修了証授与

The Importance of a Challenge

Honoka Kawamura

2nd grade Koike Junior High School

I went to Australia as a goodwill ambassador. My trip there during summer vacation was very fulfilling, and was a very precious experience. At first, I was really worried about this trip. However, I was able to learn important things from it. In particular, the following two things stood out to me.

First, I want to tell you about life at the host family's house. I had to explain many things in English, which took a lot of time. I tried to tell them about Tsubame and about my school using simple English and gestures. My host mother tried very hard to listen to me, and she understood my English. When I gave her a Japanese souvenir, she was very happy, which in turn made me happy. After that, I slowly became able to communicate with my host family a lot. On weekends, we did many things, including going to a huge mall, and watching a dance contest my host family's relatives participated in.

Secondly, I want to tell you about the elementary school we visited in Australia. We played with the elementary students and learned Japanese with them. When we played tag, a girl explained the rules. I couldn't catch the whole explanation in English, but she told me with gestures, so I was able to understand the rules. I also felt happy when she talked to me with simple Japanese words like "konnichiwa". I found that using simple language makes communication easier. As such, I want to use simple English in order to talk a lot.

In these twelve days, I learned that it is important to try, even when things are difficult. I want to keep this lesson in mind throughout my life. Also, I want to communicate more with foreign people. I had a great experience this summer. I'd like to say thank you to my teachers and my family. My buddies said, "please come to Australia again," and, "I also want to go to Japan," which made parting difficult, but as I left, I thought to myself, "I hope we can see each other again sometime."

Thank you very much.

大切な思い出

燕市立吉田中学校 1年 舩岡 優杏

私は燕市の親善大使として、オーストラリアとシンガポールを訪れました。楽しみでワクワクしている一方で、初めてのことで不安もありました。しかし、現地の人や、ホストファミリーはとても優しく、英語が不十分な私にも積極的に話しかけてくれました。私は優しさにふれることができ、オーストラリアでは、とても楽しい9日間を過ごすことができました。

この経験から学んだことが2つあります。

一つ目は、積極的に自分の意思を伝えることの大切さです。私は目標に積極的にコミュニケーションをとることをあげていました。ホストファミリーは本当の家族のように私に接してくれました。休日にはビーチやショッピングモール、動物園等に連れて行ってくれました。移動中の車の中では、オーストラリアの動物について教えてくれたり、オーストラリアの国歌を歌ってくれたりしました。私も日本の歌を教えてあげたりして、たくさん会話をすることが出来ました。一緒にクッキーやパンを作ったり、折り紙を折ったりして、積極的に会話をしました。

また現地校の友達も、初めて会ったとき、自分から進んで挨拶をして話しかけてくれたり日本語で「こんにちは」と言ってくれたりして、とても嬉しかったです。このことから私は、言葉を上手く伝えることが出来なくても、これだけ心を通わせることができ、色々な思いを共有出来ることを学んだので、これからは今まで以上に積極的に周りの人とコミュニケーションをとっていききたいと思います。

二つ目は、人と人とのつながりです。私はホストファミリーと別れる際に「帰っても連絡を取り合おう」と言われ、お母さんは涙を流しハグをしてくれました。離れていてもずっと一緒」という思いが込められているのだと感じました。短期間のホームステイで、こんなにも大切にしてもらえていたなかったので感動と感激、そして感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。これから私も人と人とのつながりを大切に、友達や家族と過ごしていきたいです。

私はこの機会にさまざまな貴重な経験をしました。私にとって、この経験は、とても良い思い出となり、財産となりました。このことを活かして、これからの人生を歩んでいきたいと思います。このような素晴らしい機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。



ホストファミリーとビーチで



ホストファミリーと動物園へ

Important memories

Yuan Masuoka

1st grade Yoshida Junior High School

I visited Australia and Singapore as a goodwill ambassador for Tsubame City. While I was very excited, I was also worried because of all the new things I was going to experience. However, my host family and the other Australians I met were very kind and actively spoke to me, even though my English was lacking. I was touched by kindness of many people and I had a great 9 days in Australia. There are two things I learned from this experience.

The first is the importance of actively communicating your intentions. I made it a goal to actively communicate. My host family treated me like a real member of the family. On holidays they took me to the beach, the mall, the zoo, and many other places. They taught me about Australian animals, and sang the Australian national anthem in the car. I also taught them Japanese songs and had a lot of conversations. We made cookies and bread together, did origami, and had conversations.

When I first met friends from the school, they introduced themselves, talked with me, and said "hello" in Japanese, which made me very happy. From this, I learned that even if I can't communicate well, I've learned that I can share a lot of thoughts. I based on this experience, I want to try to actively communicate with others.

The second thing I learned from this experience is the connection between people. When I left my host family, my host mother asked me to stay in touch, and she shed tears and hugged me. It felt as if, even though we were apart, we would always be together. I wasn't expecting to value this feeling so much during a short-term homestay, so my heart was filled with emotion and gratitude. From now on, I would like to cherish the connections between people and spend more time with my friends and family.

I had many valuable experiences during this trip. For me, this experience has become a very good memory and a life-long asset. I want to make use of it throughout my life. Thank you very much for giving me such a wonderful opportunity.

僕を待っていたすばらしい世界

燕市立分水中学校 1年 田辺 敦士

僕は燕市の親善大使として 12 日間オーストラリアとシンガポールへ行ってきました。外国で生活することは僕にとって初めての経験なので、とても楽しみにしていました。

実際に行って、まず大変だったことは、当然ですが言葉が全然通じないことでした。僕のホストファミリーは、男性の 2 人暮らしでした。シェインさんもマイケルさんもとても優しくて明るい人で、僕のために英語をととてもゆっくりしゃべってくれました。僕は最初のうち、伝えたいことを伝えることができなくて、もどかしさを感じていました。そこで、伝えたいことがあったら、候補となりそうな英単語を片っぱしから言葉に出すことにしました。そして、ホストファザーたちが「分かった」という顔になったら正解として記憶にとどめておきました。この方法は意外とうまくいき、もっと良い言い方のアドバイスももらいました。

次に大変だったことは、燕市の親善大使としての任務です。僕はコーディネーターのケリーさんに燕市のプレゼンのご指導を頂くとき、「笑いなさい」と何回も言われました。僕は今まで、笑顔でスピーチをしたことがなかったので、変な感じがしました。しかし、「この瞬間は外国にいるのだ」と自分に言い聞かせ、がんばりました。そして、目の前にいる、フリンダーズパブリックスクールの生徒の皆や先生方に楽しんでもらえるような情熱的なスピーチをすることができました。現地校の皆が「燕市に行きたいな」と思ってくれたらうれしいです。

また、滞在中に僕がいつも心掛けたことは、与えられた状況を 120%楽しむということです。ホストファザーたちとも、ステイ先に遊びに来た人たちとも、現地校の生徒たちとも、積極的に会話しました。そして近所の公園で出会った中学生達とも、クリケットをして楽しみました。無我夢中でコミュニケーションしているうちに、気がついたら僕は、それなりに英語をしゃべっていました！

この 12 日間で僕は「できるかできないかじゃない、とりあえず挑戦してみることだ」ということを強く実感しました。スピーチコンテストもそうでしたが、とりあえず飛び込んでみたらすばらしい世界が僕を待っていたのです。僕は、今回の体験だけでなく、この感動も、これからの生活に活かしていきたいです。

そして最後に、多くの方々に感謝したいです。引率の廣川先生、篠崎先生、分水中学校の先生方、ご指導ありがとうございました。そして何よりも燕市の皆様、このようなすばらしい機会をありがとうございました。



現地校の生徒とバスケットボール



ホストファミリーと一緒に

The wonderful world waited for me

Atsushi Tanabe

1st grade Bunsui Junior High School

This summer, I visited Australia and Singapore as a member of Goodwill Ambassadors of Tsubame City. I was really looking forward to visiting foreign countries because it was my first time abroad.

Actually, the hardest thing for me was, of course, to understand the language. Shane and Michael were my host fathers in Australia. They were very kind and cheerful people who spoke English very slowly for me. At first, I felt frustrated because I couldn't tell them what I wanted to say. So I decided to use English words that seemed possible when I wanted to convey something. And I remembered the way I said it when my host fathers smiled and nodded. Unexpectedly, this method worked well and they even gave me some advice on how to say things better.

The next thing that was tough for me was to do my duty as a Goodwill Ambassador of Tsubame City. The coordinator, Kellie, told me to smile many times at the presentation rehearsal. I felt it very strange to give a presentation with a smile, because I had never done that before. However I told myself many times "I'm in a foreign country. Don't be shy", and I kept on smiling during my speech. As a result, I was able to give a passionate speech that could be enjoyed by the students and teachers of the Flinders Public School. I hope everyone in the local school wants to go to Tsubame city.

Also, what I always kept in mind during my stay was to enjoy 120% of the given situation. I enjoyed talking with my host fathers, people living in the neighborhood, and students and teachers in Flinders public school. I also enjoyed playing cricket with the junior high school students that I met in the park. While I communicated with them, I realized that I spoke English!

I strongly felt that it doesn't matter whether or not I can do something. The most important thing is to try. Like the speech contest last June, I kept on challenging my limit. When I jumped in, the wonderful world was waiting for me. I want to use this experience in my future life.

I would like to thank many people. The leaders, Mr.Hirokawa and Mr.Shinozaki, all the teachers in Bunsui junior high school, thank you for guiding me. And especially, all the people in Tsubame city, thank you for giving me such a wonderful opportunity.

大 切 な 経 験

燕市立分水中学校 2年 松田 万侑

令和最初の夏休みの12日間は、忘れられない思い出となりました。

私は、初めての海外で分からないことだらけでした。また、言葉の違いや現地の生活習慣に慣れることができるのか不安もありました。しかし、私のホストファミリーはとても優しく、「あなたは、今日から私達の家族の一員だから何でも聞いてね!」と気さくに話しかけてくれました。最初のフレンドリーな感じは、「さすが海外だな」と思いました。ホームステイ初日は、まだ英語が聞き取れなかったり、自分の言いたいことが言えなかったりと失敗続きでした。それでも、私は何とかホストファミリーと会話をしたく、翻訳アプリで単語を調べて会話をしました。最終日に近くなると英語にも慣れてきたので、燕市のことについて教えました。そうしたら、「来年2020年は東京オリンピックだから、燕市へ行こうかな!」と言われました。

その家には決まりがありました。車で移動しているとき、黄色い車を見たら「スパイダー!」と叫ぶ習慣がありました。とても楽しく、誰が早く「スパイダー!」と言えるか競い合っていました。その理由は、黄色で危険だからだそうです。

現地の小学校では、オーストラリアの文化や体験授業をさせていただきました。体験授業では、日本語の数字の書き方についての勉強をしましたが、現地の小学生は日本の数字の書き方にとっても苦戦していました。日本へとても関心がある学校だと思いました。週明けには、ダンスパーティーまでしてくれて現地の小学校で仲良くなった子たちと一緒に踊ったり歌ったりしました。

海外の学校では教科書やノートがなくプリントや電子黒板での授業がほとんどでした。また、『おやつタイム』という時間がありお菓子を家から持ってきて、おやつタイムの時間に食べるという時間でした。ほかにも、給食ではなくお弁当なので小学校に小さな購買店がありました。そこで昼食を買って食べる子も少なくはありませんでした。

燕市が企画してくださったこのような機会にはとても感謝しています。生きた英語を学ぶこともでき、国が違っても互いを尊重し合うことの素晴らしさを知ることができました。一つ一つの出会いを忘れず、今でもホストファミリーや現地で仲良くなった人たちと連絡をしています。家族は、私が帰国する際に「私たちの家はいつでも大歓迎よ」と言ってくれました。言葉の壁というのは、思っているほど高くなく挑戦してみることに意味があると感じました。

海外派遣にたずさわってくださった、教育委員会の皆様、引率者の先生方、家族に深く感謝し、この体験を自分自身の向上に繋げ進路選択に活かしていきたいです。ありがとうございました。



燕市PR活動



ホストファミリーと外食

My precious Experience

Mayu Matsuda

2nd grade Bunsui junior high school

I will never forget the memory of those twelve days during the summer of “Reiwa.”

It was my first time to go abroad, so I was nervous. I didn’t know anything about living in Australia. But my host family was very kind and said to me “You are a member of our family from today. You can ask us anything you don’t know.” I thought that they were so kind because of their culture. On the first day of my stay there, I couldn’t communicate with them. I couldn’t understand what they said and I couldn’t say what I wanted to say in English. But I tried to keep speaking with my translation application. As the last day approached, I was getting used to English, so I told my host family about Tsubame city. My host family said “The Tokyo Olympics will be held next year. We’d like to visit Tsubame, too.” One day they took me out by car.

This family had a funny custom. If they saw a yellow car, they shouted “spider!” We competed to see who could shout it faster. It was very funny. The reason why they shouted it was that yellow is a dangerous color.

When I visited an elementary school, I learned about Australian cultures, and experienced classes in Australia. We studied how to write numbers in Japanese, but it was difficult for students in Australia to write. They were interested in Japan. The following week, they held a dance party for us. We danced and sang songs with the students who got along with us. This event was also different from Japanese culture.

As this school overseas, classes had handouts and an electronic blackboard instead of textbooks and notebooks. They also have break time called “snack time”. Students bring some snacks like apples, bananas, cookies, and so on from their house, and ate them at school. I was so surprised. It was different from Japanese school. Students bring their own lunch or they buy lunch at the small store in the elementary school. There were many children who bought lunch there.

I am very grateful for this trip that was organized by Tsubame city. Through my stay in Australia, I experienced a lot of Australian culture. I also learned “real” English there. Now I realise that even though we live in different countries, we can still respect each other. My host family told me “you are always welcome at our house”. I learned that it is important to break language barriers.

I am thankful to the Tsubame city board of education staff, the teachers who took us to Australia, and my family, too. I’d like to use this experience to improve myself, and to help my future career, too. Thank you.

笑顔で溢れる 12 日間

燕中等教育学校 2 学年 湯川 心愛

私にとってこの海外派遣が初めての海外経験でした。ホストファミリーや親善大使の子と過ごした時間はかけがえのない時間です。スピーチコンテストを経て、この海外研修で大きく成長した自分になったと思います。私がとても思い出に残っているのはホストファミリーとの生活です。

私が訪問したホームステイ先は沢山のペットを飼っていました。そして年齢が近い女の子もいて、趣味や学校のことについて話すのがとても楽しかったです。私のホストファミリーは馬を飼っていたため、乗馬をさせてもらいました。慣れてくると、ギャロップで走る練習等もできたりと、とても充実した時間でした。一方、現地ではもちろん英語が飛び交う中での生活でした。

ある日、乗馬をさせてもらっていた最中に、現地の子に笑われながら声をかけられました。私はその発音が聞き取れませんでした。その時、私の前に立ち上がったのは恐怖心でした。もしかしたら馬鹿にされているのかもしれないと思いました。しかし、ホストファミリーはやさしく声をかけてくれ、多くの経験をさせてくれました。なので、恐怖心や不安もなく笑顔でコミュニケーションをとることができました。私はとても楽しいホームステイ生活を送れました。ホストファミリーに感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の親善大使の活動で改めて日本の良いところを知れる機会ともなりました。そして英語力が確実に上がりました。この海外研修は私にとって大切な宝物です。支えてくださった現地の方や燕市の皆さん、学校の友達と先生、家族のおかげで素晴らしい 12 日間を過ごせました。本当にありがとうございました。



大好きなホストファミリー



楽しかった乗馬

My great 12 days with a lot of smiles

Kokoa Yugawa

2nd grade of Tsubame Secondary school

I finished my first overseas study tour. The time I spent with my host family and goodwill ambassadors became a precious experience. I have grown up a lot through this overseas trip and through the speech contest. The most memorable experience was daily life with my host family.

My host family had a lot of pets. The daughters in my host family were about my age, so we enjoyed talking about our hobbies and schools with each other. My host family had a horse, and my host mother let me ride it. When I got used to it, I practiced galloping, and it was a fantastic time. On the other hand, I was completely surrounded by English.

One day, while I was riding a horse, the local children started talking to me while laughing. I couldn't understand what was happening. I was very scared. I wondered if they were making fun of me. However, my host family spoke to me kindly and encouraged me a lot, so I was able to communicate with smiles, and without fear or anxiety. Finally, I was able to have a very wonderful homestay. Now I'm full of gratitude for my host family.

The activities I did as a goodwill ambassador gave me a chance to discover the good points of Japan, which I didn't notice before. Also my English ability had improved a lot. This trip has become a treasure for me. Thanks to the people in Australia and Tsubame who supported me, my friends, my teachers and my family, I was able to get this wonderful 12day trip. Thank you very much.

自分が成長できたこと

燕中等教育学校 3学年 岡部美智子

中学最後の夏、今の私には十分すぎるほどの収穫が得られた。全てがよいことではなかったけれど、全てが今後の推進力となったと感じている。

まず、分厚い言葉の壁を感じた。この壁があることは予想していたが、改めて思うと、自分の力不足が表れていた部分だったと思う。

一番、そのことが目に見えていたのがホストファミリーに言われたことだった。それは、「あなたの友達はずごく上手だけれど、あなたの言っていることは分からない。」と言われたことだった。私はすごく悔しかった。でも、私は頑張って伝えようとしていたし、それは、ホストファミリーにも、頑張っていることは感じて貰えていると思っていた。そういう気持ちがよくなかったのだと帰国して思う。自分が頑張っているから、他の人にも頑張っていることは感じて貰えているという、人に甘えて自分が努力することをやめてしまう。私は、この研修で自分に対する甘さを感じ、改善点を見つけることができた。短所を改めて感じたことそれは、失敗ではなく収穫だと思う。

今回の研修には最高学年として参加した。目標に「まずは誰かを頼るのではなく、自分の力で改善する。」にしたことにより、より自分が成長できたと思う。苦しくもあり、観光など楽しくもあり、人生初の海外研修は大きな種を作った。その種が来年の研修で大きな花を咲かせるため、努力を惜しまず、日々成長していきたい。

また、今回の研修はもしかしたら、他の親善大使より楽しいこと、成長したことが少ないかもしれないけれど、今後の土台となったことは変わらないと思う。私が収穫出来たことは少ないが、それを今後は広げていきたい。

私が親善大使として海外に行き、研修に参加できたことは協力、応援してくださった方のおかげだと思います。ありがとうございました。



ダンスパーティー



幸せの岩

That I was able to grow

Michiko Okabe

3rd grade Tsubame Secondary school

The last summer of junior high school, I had many enjoyable experiences, though not everything was good. But I feel that everything has become a driving force for the future.

First of all, when I arrived in Australia, I felt that there was a language barrier. I had been expecting this wall, but when I think back on it again, I think that it was because of my lack of English ability.

The clearest thing was the words said to me by my host family, “your friends can speak English well, but I don't understand what you are saying.” Certainly, I also didn't understand what my host family was saying. And there were many things I couldn't say because of my lack of English ability. But I was trying my best to tell them. However, I had the idea that because I was doing my best, people should recognize my effort. I think this idea interfered with me putting in continuous effort to improve my English. I admit that I was also childish. Since then, I was able to improve myself. I think that this experience was beneficial because I have overcome my weakness.

I participated in this training as a third-year student, so I was one of the oldest on the trip. Instead of relying on someone to reach the goal from the beginning, I could improve by changing myself and the environment around me. I was able to grow more. It was both painful and enjoyable. My first overseas training made a big impression on me, like planted seeds that will become flowers. I want to grow every day without hesitation, in order to make the seeds bloom next year.

This kind of training may be less fun and less beneficial to other goodwill ambassadors. But I think it will change the foundation of my future. I would like to grow myself even more in the future.

Thank you for your cooperation and for the training.

笑顔あふれるシドニー

燕中等教育学校 3年 小川 香澄

初めてのホームステイに不安は抱えていませんでした。本当にずっと楽しみでした。そして現地では、これ以上ないほど素敵な時間と、貴重な体験を得ることが出来ました。

シドニーで生活をしていて、好きだな、と感じたところは、家でも学校でも、どこでも笑いが絶えなかったところです。ホームステイ先で、ファザーと一緒にデザートを食べたとき、「フー!!ヤミー!!」と大きな声で言っていました。私も一緒になって、「んー!ヤミー!!」と大きな声で言いました。

また、みんなで動物園に行く、と言ったときも、ファザーは横でゾウの歌を歌っていました。私も一緒になってノリノリで踊りました。そのときマザーが、「あなた、ダンス上手ね!」と言ってくれました。マザーはとても優しく、たくさん私に話しかけてくれたことがうれしかったです。

訪問した小学校では、5, 6歳の子たちの授業に参加して、塗り絵をしました。そのとき隣に座っていた男の子が、「いい色の組み合わせだね」と言ってくれ、私はそれに「ありがとう、あなたのも素敵よ」と返しました。社交的な子たちに囲まれて、自分も社交的になれたと感じたときでした。

ホームステイをしていてうれしかったことは、マザーに日本のことについて聞かれたときです。「日本のポテトサラダの作り方を教えてほしいの」とか、「日本語を教えてほしいわ」と言ってくれました。

「あなたのポテトサラダの味が一番好きだわ」とマザーが言ってくれたときには物凄くうれしかったです。

私はそのときから、ファミリーにオーストラリアについてもっと聞くようになりました。大好きなホストファミリーからたくさんのことを学び、たくさんの場所へ連れていってもらいました。そのおかげで、私はオーストラリアが大好きになりました。

この派遣事業を終えて、私の英語力と精神面は大きく成長したと胸を張って言えます。このような機会を設けてくださった方々、本当にありがとうございました。燕市の中学生でいられたことを私は誇りに思います。



現地の小学生の友達と



ファミリーと夕食

Plenty of Smiles in Sydney

Kasumi Ogawa

3rd grade Tsubame secondary school

I wasn't worried, even though this was my first homestay. I was really looking forward to it. In Sydney, I had a great time and a precious experience.

During my stay in Sydney, the best part was that there was lots of laughter everywhere, even at school. When I ate dessert with my host father, he said "Foood!! Yummy!!" in a loud voice. I said "Mmm, Yummy!!" with him, too.

Also, when we went to the zoo, my father sang "We are going to the zoo ♪ zoo ♪ zoo ♪" I danced rhythmically with him, too. Then my host mother said, "You can dance very well" She was very kind, and I was happy that she talked to me a lot.

At the school that we visited, we joined the class of five- and six-year-old students and did coloring. Then a boy who was sitting next to me, said "Your coloring is nice", and I answered "Thank you, yours is nice, too." At that moment, I felt that I was able to be friendly to everyone because there were many friendly children around me.

Another memorable time was when I was asked about Japan by my host mother. She asked, "Will you tell me how to make Japanese potato salad?", and "Will you teach me Japanese?" When my host mother said that she liked my potato salad best, I was very happy.

Since then we had a lot of conversations. I learned a lot of things from my beloved host family and I was taken to many places. Because of that, I've come to love Australia.

Now that I've finished this project, I can puff out my chest and say that I was able to improve my English and myself far beyond my expectation.

Lastly, I want to say thank you to the people who gave us this great chance. I'm proud that I am a student in Tsubame.

私はこの夏、とても貴重な経験をすることができました。初めての海外旅行となった今回の海外研修は、日本とは違うことばかりで、毎日がとても新鮮でした。

日本との文化の違いを特に実感したのが、オーストラリアの小学校で過ごしているときでした。オーストラリアの学校は、日本の学校よりも校則がゆるくて自由だと感じました。例えば、生徒は昼食にパックランチを持ってきます。パックランチの中身は人それぞれで、私がホームステイをした家は、サンドイッチなどの軽食と、おかしやフルーツがたくさん入っていました。日本の小学校は、おかしを食べではいけないので、初めはおかしを食べながら遊ぶ子供たちを見て驚きました。でも、私もすぐに慣れて、リンゴを片手に、子供たちと走り回って、たくさん遊びました。とても楽しかったです。また、言語も文化も、何もかも普段と違う環境で生活する中で特に学んだことが2つあります。

一つ目は、積極性を持つことの大切さです。私はこの12日間を通して、日本人は海外からシャイだと言われるのが分かった気がします。海外の人は、みんなとてもフレンドリーで、気軽に話しかけてくれます。日本にはそういう習慣がないので、初めは少し戸惑いましたが、学校で子供たちが「遊ぼう」と声をかけてくれたときに、こちらも明るく返したら、すぐに仲良くなることができました。それから、ホストマザーにも思い切っていろいろ話しかけたら、私の拙い英語を丁寧に聞き取ろうとしてくれて、会話が少し長く続いたときはとても嬉しかったです。ほんの少し自分から動く勇気をもつだけで、何かが変わるということに気づくことができました。

二つ目は、人にやさしく接することの大切さです。私は、この海外研修に参加するにあたって、1つだけ不安だったのが、ホストファミリーと打ち解けられるかということでした。しかし、ホームステイが始まってすぐに、杞憂だったことに気づきました。私のホストファミリーは、初めて会った私に、最初から当たり前のように家族の一員として接してくれました。私のことをとても気にかけてくれて、本当に親切にしてもらいました。ショッピングや動物園、BBQなど、たくさんの場所に連れていってくれて、ホストファミリーのおかげで、たくさん思い出ができました。

そして、私は今回の派遣事業で忘れられない体験をしました。それは、私がパスポートを失くすという大失態をしてしまったときのことです。不安や焦り、後悔で一杯になっている私を、他の親善大使のホストマザーたちもみんな、優しく声をかけながら抱きしめてくれて、一緒に全力で探してくれました。ようやく見つかったときには、感謝の気持ちで一杯になりました。自分のことのように一緒に喜んでくれるオーストラリアの人たちを見て、国境を越えても、人の温かさは変わらないことを実感し、感動しました。私もこんな風に、人のために一生懸命になれる親切な人になりたいと思いました。

私にとって、この12日間は、様々な学びと発見があった、とても充実した時間でした。また、素晴らしい出会いと楽しい思い出もたくさんできました。私は、今回の海外派遣事業で学んだことをこれからに生かしていけるよう、この貴重な体験を心に留めながら過ごしていきたいです。



ホストマザーとボウリング場で



マリーナベイサンズの前で

I had a valuable experience this summer. This overseas training was my first trip abroad. In Australia and Singapore I experienced something new every day because the cultures of foreign countries are different from Japan.

The place where I felt this cultural difference the most was the school in Australia. I felt that the Australian school's rules are more free than Japanese schools. For example, students bring a packed lunch from their homes. Different students' packed lunches have different foods in them. My host family's pack lunch had sandwiches and many snacks and fruits. One Japanese school's rule is "Don't eat snacks," so at first I was surprised to see the children playing and eating snacks at school. But I became used to the environment and I played a lot with the children, eating an apple on school grounds. It was very fun. Also, I have learned two things in the environment where languages, cultures and many other things are different:

First, I learned the importance of being positive. I now understand why foreign people think "Japanese people are shy" through spending 12 days in Australia. They were very friendly, so they talked to me casually. At first, I was a little confused because we don't do that in Japan. But after a while, when students said to me "Let's play?" I answered brightly, and I was able to become friends with them quickly. Then, when I took the plunge and talked to my host mother about even small things happening to me in Australia, she listened politely to my poor English. And when our talk continued, I was happy. With these experiences, I noticed that if I had a little courage to get out of my comfort zone, something changed.

The second thing I learned was the importance of kindness. Before I started this overseas training, my only fear was "Can I quickly get close with my host family?" But I noticed that fear was unnecessary soon after the home stay started. My host family treated me like a real family member from our first meeting. They were very kind and they were always concerned about me. They took me to a lot of places. For example, shopping, the zoo, a BBQ and so on. Thanks to them, I made a lot of good memories.

Then, I had an experience in this training that I will never forget. It was the time I carelessly lost my passport. Not only my host mother but also all other goodwill ambassadors' host mothers hugged me and spoke to me in their tender voices. Moreover they did all they could to find my passport. At last my passport was found, and I couldn't thank them enough. When I saw that Australian people are genuinely friendly, I really felt the warmth of others beyond Japan's borders, and I was deeply moved. I thought I want to become a kind person like them, who works very hard for other people.

These 12 days were a valuable time for me, because I ~~could~~ learned and discovered various things. Also, I had many wonderful meetings and nice memories, too. I want to spend my life keeping these valuable experiences in my heart and make use of what I have learned on my overseas training for my future.

特別な思い出

燕中等教育学校 3年 長谷川 葵

中学生最後の夏、私にはとても素敵な思い出ができました。初めてのホームステイ、初めての外国の友達、初めてのベジマイト。初めてだらけの旅で私はたくさんの事を学び、体験し、感じ、楽しむことができました。思い出がたくさんありすぎて、この用紙には到底書ききれないので、私はその中でもとくに印象に残ったことを2つ書こうと思います。

一つ目は、日本とオーストラリアの違いです。当たり前ですが、全く違います。それはオーストラリアに降り立った瞬間から感じる事ができました。冬とは思えない強烈な日差しに文字通り雲一つない青空、サーフィンやひなたぼっこをしている人々。それらは全て私をわくわくさせました。物だけでなく、人も二つの国の間では全く違いました。私は日本の学校に留学生が来ても遠くから眺めているだけで話しかけようとは思いません。しかし、オーストラリアの生徒達は私たちが学校を訪れると毎日「コンニチハ!」と声をかけてくれました。また、授業中でも音楽が流れ始めればみんなノリノリで踊ります。それに冷たい目を向ける人はいません。ダンスの上手い下手に関わらず、大人も子供も全身で音楽を楽しんでいることを表現します。自分の感情をあまり表に出さない、というのは、私だけでなく日本という国全体の集団の雰囲気としてあると思います。日本人は、最初は抵抗があると思いますが、やってみれば絶対に楽しい気持ちになります。日本が見習うべき素敵な文化だなと思いました。いつか日本でも「堅い顔をした上司がダンスパーティーでノリノリに」なんて日がくるといいなと思います。

二つ目は、ホストファミリーとの会話です。私は初日、心が折れました。全然聞き取れないのです。家に向かう車の中でホストファザーがたくさん話しかけてくれたのですが、理解できず、“slowly, slowly, please”と言ってゆっくり言ってもらっても分かりませんでした。結局、“pardon?”を4回繰り返したあと、ホストファザーのほうで諦めてしまいました。この出来事は私をとて不安にさせましたが、それも初日だけで、ホームステイした9日間は、自分が成長していることを毎日感じられるものでした。英語を完璧に理解していたわけではありませんでしたし、私の英語も単語を並べただけのつたないものでしたが、まるで感情で会話しているようでした。心が通じ合うとはこういうことだと思ったし、心が通じあうのに言葉は要らないとも思いました。でも「もっと単語を知っていれば・・・」「もっと流暢に話せれば・・・」と思うことも多々ありました。なので、もっと実用的な英語を学びたいです。

私は来年、修学旅行でもう一度オーストラリアに行きます。そのことを目標にして、また英語の勉強を頑張りたいです。



顔より大きいハンバーガー



青い空と大きな海

My special memory

Aoi Hasegawa

3rd grade Tsubame secondary school

During the last summer of my junior high school days, I was able to make very special memories. My first homestay, my first foreign friends, and my first vegemite. I was able to learn and experience a lot of things through this trip. I have many good memories. I can't write all of them on this paper so I will write two of the most impressive things.

First, the differences between Japan and Australia. Not surprisingly, the two countries have many differences. We could feel it straightaway when we arrived in Australia. The weather was perfect even though it was winter there. There was no cloud in the blue sky. People were lying on the beach and relaxed. That made me very excited. The big difference between the two countries is not only about atmosphere but also about people's character. I don't try to talk with exchange students actively when foreign students come to our school in Japan. Maybe, I would be shy. However, students in Australia said "konnichiwa!" to us every day. Also, they were dancing without any hesitation if music was played even though it was class time. There was nobody who stared at them coldly. They were expressing their excitement for the music with their bodies; not only the children, but also the adults. I think being shy is not only in my character, but also the whole atmosphere of society in Japan. Japanese may feel embarrassed first, but even Japanese can surely enjoy expressing our excitement with our bodies. It is a very nice culture. I think Japan should follow it. I hope a day such as "The day the dancing party made the obstinate boss smile" will come to Japan someday.

The second thing I want to talk about is talking with my host family. On the first day, I lost heart. I could not understand their English at all. "Slowly, slowly, please" my host father spoke to me many times. I said him "slowly, slowly, please." and he spoke slowly again. However, I could not understand what he said. After that, I said "pardon?" four times and then he gave up. This matter made me anxious, but it was just the first day. Later, I could feel that I was growing every day during the nine days of homestay. I didn't understand English perfectly and my English was just broken and poor. However, it seemed we could communicate just using emotions. I realized that this was how we could communicate with each other, and we didn't have to speak perfectly to communicate with each other. Nevertheless, I thought "if only I knew more words..." "If only I could speak English more fluently..." many times during this trip. So, I want to study English more.

I will visit Australia again on a school trip next year. I want to do my best to improve my English with that goal in mind.

貴重な体験

新潟第一中学校 2年 加藤 凛

私はこの夏、親善大使として、オーストラリアとシンガポールを訪問しました。たくさんのことを見て聞いて知って考えることができ、貴重な体験ができました。

一つ目は、人々の優しさに触れたことです。現地校を歩いていたら、「コンニチワ」「Hi, Japanese student!!」などと、たくさん話しかけてくれました。一緒に鬼ごっこをしたり、絵を描いたり、とてもフレンドリーで、すぐに仲良くなることができました。ホストファミリーと外へ出かけると店員さんがおまけをしてくれたり、すれ違った人に「Where are you from?」と聞かれたりしました。日本人と答えると、京都や東京オリンピックについて話してくれました。日本について知ってくれていたことがとても嬉しかったです。

二つ目は、自分の可能性に気付けたことです。出発前は、英語で話することができるかととても不安でした。しかし、自信を持ってできる限りの単語を並べて話したら、予想以上に言いたいことが伝わりました。やればできるということを改めて実感しました。ホストファミリーとも会話が弾み、家族の一員のように接してくれました。英語を話して一緒に生活することができたという達成感で溢れています。

この研修を通して、世界の大きさを知るとともに、自分についてたくさん知ることができました。また、最後まで親善大使の仲間と頑張れて良かったです。帰国してから自分の中で「何か」が変わったと思います。私は親善大使として活動でき、本当に良かったです。この12日間は私の中で一生忘れられない思い出になるでしょう。世界へ羽ばたいていける大人になりたいです。



ホストファミリーとお別れ



現地校生徒と共に

A Very Valuable Experience

Rin Kato

2nd Grade Niigata Daiichi Junior High School

I visited Australia and Singapore as a goodwill ambassador this summer. I was able to see, hear, and learn new things, and was able to have a very valuable experience.

The first thing I want to talk about is how I was touched by the gentleness of the people in Australia. When I was walking at the school, many students talked to me, saying, "Hello." and "Hi, Japanese student!!" The students were very friendly, and we played tag, drew pictures together, and we became good friends immediately. When I went shopping with my host family, a shop worker gave me a discount, and some people asked me "Where are you from?" When I answered that I'm Japanese, they talked about Kyoto and the Tokyo Olympic Games. I was very glad that they knew about Japan. The second thing I want to talk about is that I was able to notice my potential. Before departure, I was very nervous about whether or not I would be able to speak English. But when I had confidence and used my English to the best of my ability, I could communicate more than I thought. I realized that I can do it if I try. The conversation with my host family became lively, and they treated me like family. I had a sense of achievement from using English during the homestay.

Through this experience, I discovered a whole new world and learned a lot about myself. And I was glad that I worked hard with the other goodwill ambassadors to the end. After coming back home, I think "something" changed inside myself. I am really glad that I was able to work as a goodwill ambassador. I will never forget these twelve days in Australia for as long as I live. I'd like to be an adult who can spread their wings and fly into the world.

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	山崎 恋依
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 親善大使として、燕市をPRし、たくさんの方々に燕市の素晴らしさを紹介する。

目標② オーストラリアについて学び、できるだけホストファミリーと仲よく話せるようになる。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 新潟県人会との交流会やさよならパーティーでプレゼンテーションを行い、積極的にPRすることができました。また、ホストファミリーとの会話の中でもPRできました。

目標②について 英語を聞き取ることはなれてきたのですが、自分の気持ちを英語で伝えることに、苦労しました。辞書で分からない言葉を調べたり、ジェスチャーを使って伝えたり、いろいろな努力をしました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

最も思い出に残ったことは、現地の学校での活動です。各クラスの授業に参加し、そのクラスでできた友達と親しみ、また英会話クラスでオーストラリアの動物や食べ物やアボリジニについて学んだことが心に残りました。短い時間でしたが、とてもよい思い出になりました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

英語力の向上です。ホストファミリーや現地の方々がたくさん話しかけてくれましたが、自分の思っていることが伝えられないことが何度もありました。これからはもっと英語を勉強し、たくさんの方の国へ行ってみたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

ホストファミリーや現地の方々と会話で通じないことがたくさんあります。そのようなときジェスチャーを使って、自分の思いを伝えることができました。みなさんもあきらめずにチャレンジしてみてください。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	本田 優月
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 親善大使として、燕市のことをPRする。また、オーストラリアやシンガポールのことについて現地のの人に教えてもらう。

目標② ホストファミリーに積極的に話しをしたり、現地校の人たちとコミュニケーションを取り英語力を向上させる。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 現地校の人やホストファミリーに燕市をPRすることができ、またオーストラリアの有名な牛丼を食べてもらいました。

目標②について ホストファミリーがいそがしくあまり話すことができなかったけれど、現地校で仲良くなった友達とコミュニケーションを取り、英語力が向上しました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーとクリケットをしたことです。親善大使のあつし君と同じクリケットのTシャツをホストマザーが買ってくれ、そのTシャツを着てクリケットをしました。現地の子どもたちといっしょにやったら、ボールが勢い良く飛んできてうまく打つことができなかったけれども良い経験ができたと思います。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

この経験を生かして、たくさん人の国へ行き英語力を上げたいです。
また、英語でコミュニケーションも取れるように、英会話を勉強して英語に関心を持ちたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

始めは言葉が伝わるかわいそうだと思いますが、ホストファミリーが優しくしてくれるので、大丈夫です。ホストファミリーがいそがしいと、家で過ごす時間が多いので、自分で色々工夫すると良いです。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	川村 帆乃花
-----	-----------------	----	--------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 自分の使うことの出来る単語を並べてでも自分の思いや考えを最後まであきらめずに伝えること。

目標② たくさんの人に話しかけ、燕市の良い所をたくさん伝え、燕市のことを一つでも多く知ってもらうこと。

2 目標は達成できましたか？

目標①について ホストファミリーの方が最後まで私の話を聞いて理解しようとしてくれたため、あきらめずに自分の伝えたいことを話すことができました。

目標②について ホストファミリーには、燕市とオーストラリアの違いをたくさん伝えることができませんでした。ですが、ホストファミリーと会話がないときに、もっと詳しく紹介すれば良かったと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

現地の子供たちとのランチタイムが一番思い出に残っています。今年は、バディースチューデントがいなかったため、友達ができるのが不安でした。いろいろな歳の子どもが「こんにちは」と片言の日本語で話しかけてくれたり、ランチタイムに遊びに誘ってくれたため、とても楽しい学校生活を送ることができました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

学校にいる ALT の先生と積極的に話すこと、燕市以外のスポーツコンテストに出てみることです。この2つのことを頑張りたいです。英語のスキルをあげたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

あきらめないで、挑戦する心を持って、オーストラリアとシンガポールへ行ってみようと思います。「なかなか言いたいことが伝わらない、そんな時でも、あきらめずにたくさんの人と話してみてください。とても良い経験になります。」

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	件岡 優 杏
-----	-----------------	----	--------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 燕市の親善大使として、よいところをたくさんPRし、燕に行きたいと思ってもらえるようにする。また、文化や特色を知ってもらい燕に興味をもってもらえるようにする。

目標② ホストファミリーと積極的に会話し、自分の英語力を高める。また、現地の人とも仲良くし、バディースチューデントともたくさん会話する。

2 目標は達成できましたか？

目標①について プレゼンテーションの時に興味深く、真剣に聞いてくれたから、興味をもってくれたと思います。しかし、プレゼンテーションが2回に減ってしまったので、たくさんPRすることができなかったです。

目標②について 私は最初から、積極的に会話をすることができました。また、現地の人とも仲良く遊んだり、たくさん会話することができ、自分の英語力を向上させることができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

私はホストファミリーと動物園とビーチに行ったことが一番心に残っています。とてもきれいな海を見たり、オーストラリアの動物についていろいろと説明してくれたことがとてもうれしかったです。オーストラリアでホームステイする最終日に岩の間からなみかぶき出るところに連れていってもらいました。そこではとても高く水が上がり、それが印象深いです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

これから、また大きくなったらオーストラリアに留学したいです。今の英語力よりもっと力をつけて、英語がペラペラになった状態で、またホームステイをしたいです。そのために、もっと英語を勉強していきたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

オーストラリアの方々はとても優しく私達を受け入れてくれました。英語で話せるか不安という人でも、大丈夫です。ぜひ、自分から進んで話しかけて積極的にコミュニケーションをとってみてください。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	田邇敦士
-----	-----------------	----	------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 燕市の名産だけでなく、人々の様子、一生懸命な人、スポーツをがんばっている人、面白い人がたくさんいることをアピールしたい。

目標② 現地の学校で友達をたくさん作り、一緒にスポーツを楽しみたい。また、シドニーの人たちが普段どんなスポーツを楽しんでいるか、公園の設備はどうなっているかを調べたい。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 僕個人が燕市の代表であることを常に意識し、いつも明るい笑顔を心がけた。そして、全てのイベントに全力で取り組むようにした。僕はこの滞在を100%楽しんだので、燕市民の勤労さや明るさを少しはアピールできたと思う。

目標②について 現地の友達と授業中や休み時間に積極的に交流し、クリケットやラグビーなど、オーストラリアで人気のあるスポーツと一緒に楽しんだ。地元の公園にも行き、そこにいた中学生とクリケットを楽しんだりもできたので、目標は達成できたと思う。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

僕のホストファミリーは、男性のかたり暮らしだったので、僕も入れて男3人で、毎日にぎやかに過ごした。クリケットを楽しんだり、一緒にXニュースを見てピザを注文して皆で食べたり、ホストファーザーの料理がとても美味しくてびっくりしたり、もう一人のホストファーザーの作ってくれるお弁当が楽しかったり、4匹のブルドッグの世話をしたりしたこと。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

シドニーや燕市のことをもっともっと知りたくなった。また、自分の経験したことを、いつか文章にして、もう一度英語スピーチコンテストに挑戦したい。これからも今まで以上に、英語や他の勉強、そしてスポーツを頑張りたい。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

出川哲郎さんのように、気持ちがあれば言いたいことは伝わると思いました。僕の場合、正しい文法でなくても、単語を並べただけでも大丈夫でした。また分からない「通じない」ことも楽しんでしまえばいいと思います。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	松田 万侑
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 恥じずかしからず、積極的にバディー以外の子にも話しかけ、現地の友達をたくさん増やし名前を覚えてもらいたい。

目標② 親善大使としての自覚を持って現地の方々に燕市をPRすると共に現地で学んできたことをプレゼンテーションでオーストラリアとシンガポールの魅力を知ってもらいたい。

2 目標は達成できましたか？

目標①について バディーがいまいませんでしたが積極的に現地校の生徒に話しかけ、最終日には「Hi Mayu!」と言って名前を呼んでくれる子が多くいて9日間頑張ったと思いました。

目標②について ホストファミリー先に燕市のことについて教えてあげたら「来年東京オリンピックで日本へ行き燕市に行きたい!」と言ってくれました。また、シンガポールでは英語のスピーチを発表したので燕市の魅力について知ってくれたと思いました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストマザーと家の守護犬と散歩にビーチへ行きました。その日は満月で行った時間か夕方だったのでとてもグラデーションがきれいでした。帰り道、後ろから大きな犬が大きく吠え私達を倒そうとしました。しかし、守護犬のフライヤーが思いきりその犬に対して威嚇をしてくれました。その後ホストマザーが「フライヤーは私達を守ってくれます。だからさっきも私達を守ってくれた」と言われとても感動しました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

現地へ行ったとき自分の英語が伝わらず聞きかえされたことが何度もありました。準備がたりなくて後になり後悔しました。今後また海外へ行く機会がある際はしっかりと受け答えができ安心してホームステイをし多くの国へ行きたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

現地の方々は優しい方がたくさんいます。だからといって安心せず自分ができる限りのことはしっかりとしていた方がいいと思います。そして、それを最大に活かしてください。そうすれば向こうの方も必死で自分達が言いたいことを理解してくれると思います。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	湯川 バイ愛
-----	-----------------	----	--------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① ホストファミリーやバディとたくさん会話をして、仲良くなると共に自分の英語力を向上させる。

目標② 現地の人に1つでも多くの燕市の良い所を知ってもらう。また、オーストラリアと日本の文化などの違いを知る。

2 目標は達成できましたか？

目標①について ホストファミリーが質問してくれたことに対して+αで答えを返すことができた。初日に比べ、慣れてくると伝えたいことを英語ですぐ発せられたので英語力も向上したと思います。

目標②について おみやげを渡す際に日本や燕市はどのような事が有名なのか伝えられました。文化も知ることができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーとの生活です。一緒にスーパーやデパートに行ったり、会話をする事、ペットの世話をしたことなどすべて楽しく幸せな時間でした。日本に興味を持ってくれたり、沢山話しかけてくれ、英語力が上がるものとなりました。多くの体験をさせてもらって感謝です。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

初めて海外へ足を運んでみて、英語で現地の人と話しかけ、文化に触れることがとても楽しいことだと気付きました。なので、もっと色々な国へ行ってみたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

この海外派遣は必ず楽しい時間となると思います。英語に自信がなくても、知っている単語を使って笑顔で話せば成功すると思います。頑張ってください😊楽しんで！

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	岡部 美智子
-----	-----------------	----	--------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 誰かを頼るのではなく、まずは自分の力で挑戦する。

目標② 笑顔で接し、ユーモアのある行動をする。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 達成することができました。研修前に比べ、圧倒的に積極的になったと思います。

目標②について 達成することができました。研修の中にユーモアのある行動を求められる場面が多くあったので、心がけることができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

私の1番の思い出は、シドニー、シンガポールでの観光です。ホストファミリーとの会話で勧められた観光地にも行けたので、話題も広がり、ホストファミリーとの会話をより楽しむことができました。それぞれの観光地では、ガイドさんを通じて、歴史を知ることができました。研修1番の楽しみを有意義に過ごすことができました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

すばらしい経験機会をさせていただき、積極的になれたので、この力を活かせるような活動に参加していきたいです。コミュニケーション力は付いたので、文法にそった文になるようにしていきたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

文法にそった文で伝えるのも大切だと思うのですが、まずは、自分が伝えたいという気持ちが大切だと思います。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	小川 香澄
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 現地では、自分から英語で話しかける。学校では1日3人以上。ホームステイでは毎晩1日の出来事などを言う。

目標② 聞きやすくして楽しいプレゼンテーションをすることを毎回心がける。あと、人前では笑顔を常に忘れない。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 学校ではいつも会話が絶えなかったのでも3人以上は話しかけられた。ホームステイ先でも毎日話しかけることができた。

目標②について 2回のプレゼンテーションで全力を尽くすことができた。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

オーストラリア最終日にホストファミリーと過ごした夜が最も思い出に残っています。サンキューカードを渡し、感極まった後に‘Good night’と言ってベッドに入ったら、マザーが部屋に来て、‘私の娘と同じように眠りを手伝うわ’と言って私の頭をずっとなでてくれました。最後には私のおでこにキスをして、‘Love you.’と言って部屋を出て行きました。なんてロマンチックな家庭なんだろう、と思いました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回親善大使として燕市のPRをした経験を生かし、これからも機会を見つけ、海外の人へ燕市のことをもっと広められるように頑張りたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

思いついたことを英語で話すことができないと、会話が弾まず、楽しめないと思います。NHKのラジオなどを活用して英会話の勉強をしてから行けば絶対に楽しいですよ。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	西村 紗智
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 燕市や日本のいいところを オーストラリアの人たちに たくさん伝えて、「日本に行きたい」と思ってもらうこと。

目標② 英語 がわからなくても、ときには身振り手振りで、自分の考えを相手にしっかり伝えること。

2 目標は達成できましたか？

目標①について オーストラリアは雪が降らないので、日本の冬などについて話した。でも、もっと食生活などについても話せると良かったと思う。

目標②について 英語は全然聞き取れなかったし、私の英語はたぶん文法が間違っていたらけたんだけど、なんとか、知っている単語を探しながら、積極的にコミュニケーションを取る努力をした。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーと過ごした休日が、とても楽しかった。土曜日は、ドライブをしたし、家で映画を見たりして、1日ゆっくり過ごした。日曜日は、私がショッピングが大好きだと話していたため、片道2時間かけて、シドニーの大きなお店まで連れていく計画を立ててくれた。他にも、動物園や水族館、オペラハウスやハーバースブリッジ、中華街など、たくさん場所を連れて行って、本当に優しい家族だった。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

私は、今回の海外研修で、自分のリスニングとスピーキングの力の無さを思い知ったので、今後は特にその2つに力を入れて英語の学習に取り組みたい。また、積極性をもって、日々の生活を過ごしたい。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

私は、今回の研修を終えて、もっとホストファミリーと一緒に過ごしたかったと後悔した。“時間は限られている、その意識をもって、家にいるときはなるべくリビングで過ごすなど、ホストファミリーとの時間をたくさん作ってほしい。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	長谷川 葵
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標①

恥ずかしがらず積極的に話しかけ、現地でたくさん友達をつくる。

目標②

燕についてPRすることはもちろん、現地のことについてもたくさん質問し、日本と外国の違いを学んでくる。

2 目標は達成できましたか？

目標①について

「積極的に」ということがこの12日間で一番成長できたと思います。友達もできて、楽しく生活することができました。

目標②について

燕市についてたくさんPRすることができました。お土産、洋食器も喜んでもらえてとてもうれしかったです。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

すべて、出来事が素敵な思い出になりました。ホストファミリーとの日常、中での会話が一つ一つ印象に残っています。もちろん休日に見に行、たビーチなどもすごく綺麗でしたが、一番の思い出は日常生活の中でファミリーと話せたことでした。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

私は来年 修学旅行でもう1度オーストラリアに行きます。今回以上に良い旅にできるよう、自分に足りないものを補、ていきたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

「積極的に」これが一番重要で一番難しいです。困ったときは「ちょっと大げさかな」と思うぐらい笑顔をつく、てみてください。きっと上手くなります。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	加藤 凜
-----	-----------------	----	------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 親善大使として、燕の誇る洋食器や産業についてを現地でPRする。そして、「燕に行ってみたい!」と思ってもらえるように説明すること。

目標② ホストファミリーとの生活の中で日常生活や文化に触れ、たくさんのお話を吸収すること。何事にも挑戦し、体験すること。

2 目標は達成できましたか？

目標①について ホストファミリーとたくさん燕について話すことができ、PRできたと思います。しかし、英語で自分の伝えたいことを100%伝えられた訳ではないので、事前に準備しておくべきだと感じました。

目標②について 初めてのことや慣れないことをする場面が何度もありました。しかし、日本に居たら分からなかったことを知り、体験できたのでとても良かったと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストマザーが仕事終わったあとに、車で迎えに行った時のことです。音楽が好きなファミリーで、毎晩スーパーでアイスクリームを買って車で食べながら洋楽を歌いました。歌詩は分からなくても、一緒に楽しむことができました。音楽は世界共通で楽しむことができるんだと実感しました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

この貴重な経験を自分の武器として、たくさんのお事に挑戦するきっかけになりました。今後は英語のスキルを上げ、将来世界を相手に活躍できる人間になりたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

最初はきっと緊張してしまうと思います。けれど、自分の最大限の力を使って「言いたいこと」も伝えてみてください。必ず伝わります。頼れるのは自分だけです。色々な壁がありますが、それを成長のチャンスだと思って何事もチャレンジしてください!!

親善大使アンケート

派遣先	学年	性別
オーストラリア シドニー近郊 シンガポール	小学5年生 2人 中学1年生 2人 中学2年生 4人 中学3年生 4人	男 2人 女 10人

Q1 海外派遣はどうでしたか？

- ①良かった 11人 ②まあまあ良かった 1人 ③あまり良くなかった 0人
④悪かった 0人

●その理由は？（具体的に）

- ・ホストファミリーがとても優しく、毎日が楽しかったです。
- ・現地の人はとても優しく、英語がそんなに話せなくても、やさしく接してもらえました。
- ・海外の文化に触れられる機会だったし、たくさんの交流があってとても楽しかった。
- ・オーストラリアやシンガポールの文化や生活を実際に体感できました。
- ・観光もできて、ホストファミリーや現地校の生徒とともに仲良くなり、英語力が向上しました。
- ・ホームステイが充実していました。いろいろな人々に出会うことができました。
- ・現地校の小学生がフレンドリーで、たくさん話をして交流することができました。
- ・同じ仲間と協力し、助け合いながら生活するのはとても楽しかったです。
- ・現地の友人ができ、燕市をたくさんPRすることができました。
- ・日に日にリスニング力がアップしていることを実感できました。
- ・英語のコミュニケーション能力がもっと必要だと思いました。

Q2 日程はどうでしたか？

- ①きつかった 0人 ②ややきつかった 2人 ③やや楽だった 4人 ④楽だった 6人

●体調や精神面で特につらいと感じたときはありましたか？あれば具体的に書いてください。（飛行機、英語、食事、日程など）

- ・飛行機の揺れや、搭乗時間がとても長く、大変でした。（4人）
- ・食事が合いませんでした。（2人）
- ・食事の量が多くて大変でした。（2人）
- ・慣れない気候で体調を崩して、大変でした。
- ・ホームシックになりました。
- ・家庭の急な都合で、数時間待たされることがありました。
- ・全体の日程が、変更が多くて少し戸惑いました。
- ・シャワーの使い方が日本と違って慣れませんでした。
- ・ホストファミリーとあまり会話ができないと精神的につらかったです。



羽田空港での出発前

Q3 期間はどうでしたか？

- ①長かった 0人 ②やや長かった 0人 ③ちょうどいい 7人 ④やや短かった 2人
④短かった 3人

Q4 海外派遣の中で、良かった場所や活動は何ですか？「特に良かった」ことを◎に1つ、「良かった」ことを○に4つ以内で記入してください。また、「良くなかった」ことがあれば、△に3つ以内で記入してください。

◎「特に良かったこと」

- ・ ホームステイ
- ・ 新潟県人会との交流
- ・ 現地校での授業体験、交流
- ・ ホストファミリーと過ごした休日
- ・ 燕市のPR活動（プレゼンテーション）

○「良かったこと」

- ・ シンガポール市内観光
- ・ 食事
- ・ オペラハウスとハーバーブリッジ
- ・ ホテル

△「良くなかったこと」

- ・ 飛行機（機内食）
- ・ 気温差（風が強い日）



シンガポール：アラブ人街

Q5 ホームステイの期間はどうか？

- ①やや長かった 2人 ②ちょうどいい 2人
③やや短かった 4人 ④短かった 4人

Q6 ホームステイで良かったことを書いてください。また、困ったことがあれば、具体的に書いてください。また、困ったことを解決するために自分がしたり、事前に準備したりしておくべきことを具体的に書いてください。

① 良かったことは？

- | | |
|----------------------------------|----------------------|
| ・ 家族が楽しかった。 | ・ 自分専用のシャワールームがあった。 |
| ・ ペットや動物がたくさんいた。 | ・ 一人だけのホームステイではなかった。 |
| ・ 日本からのお土産を喜んでくれた。 | ・ 一緒に映画鑑賞をしたこと。 |
| ・ 手料理がとてもおいしかったこと。 | ・ 議会に連れて行ってもらった。 |
| ・ 休日、ホストファミリーといろいろなところに出かけたこと。 | |
| ・ たくさんの場所に連れて行っていただき、いい経験ができたこと。 | |
| ・ 自分の家族の写真を持って行き、紹介できたこと。 | |

② 困ったことは？

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------|
| ・ 英語が難しかったこと。 | ・ 風が強い日が多くて、寒かった。 |
| ・ 食事が口に合わなかった。 | ・ 食事の量が多くて断ることが難しかった。 |
| ・ 変換プラグが使えなかった。 | ・ とても寒かったが、寝室に暖房がなかったこと。 |
| ・ ホストファミリーの親戚や友達など、よく分からない人がいたこと。 | |

③自分のしたことや事前の準備は？

- ・ 毎日の活動写真をとって、話題にした。
- ・ ホストファミリーにお願いして、ブランケットを増やしてもらった。
- ・ オーストラリアの文化やマナーを調べた。
- ・ もう少し会話表現を確認するなど、事前の学習をしておけばよかった。
- ・ 家族の写真や日本の風景の写真を準備した。



現地校での授業の様子

Q7 海外派遣で、とまどったことや不安に思ったこと、疑問に感じたことなどがあれば、具体的に書いてください。

- ・ トイレの使い方が違った。
- ・ コンセントにスイッチが付いていて、最初使い方が分からなかった。
- ・ ホームステイ先が学校から遠く、毎日間に合うか心配だった。
- ・ 食事のスピードが速くてとまどった。
- ・ 朝、何時に起きていいのかわからなかった。

Q8 来年へのアドバイス。

- ・ 出発の空港でお土産を買いすぎると、荷物が重くて、大変です。
- ・ お小遣いは1~2万円です。平日は使うことはなく、土日ほとんど使う場面がなかったです。
- ・ オーストラリアドルだけを持って行って、シンガポールの空港で両替をすると便利です。
- ・ 洗濯物を出すタイミングが分からなかったのも、最初に聞いておくといいです。
- ・ 風が強い日は寒いので、制服の上着やフリース、ダウンジャケット、帽子やマフラーが必要です。
- ・ 食事の量が多いので、最初に自分に合った量を伝えておくといいです。
- ・ カードは作る必要はないと思います。
- ・ スーツケースは大きいほうがいいます。
- ・ 荷物が多くなるので圧縮袋は必須です。
- ・ シャワーの使い方を最初にきちんと聞いておくといいです。
- ・ 食事の好みをきちんと伝えることが大切です。



シンガポール
ガーデنز・バイ・ザ・ベイ



現地校最終日（修了証とプレゼント授与）

引率者報告

燕市立燕西小学校
教諭 篠崎 健太郎

この度の引率から戻り、早いもので数か月が過ぎました。滞在中は、日々新たに知ることがたくさんあり、1日1日が長く感じられたので、帰国後の時の経つ早さに驚くばかりです。まさに **Time flies** (光陰矢のごとし)。今回の研修は、有意義なものとなりました。

出発式で、私は2つのことを目標としてあげました。1つ目は、親善大使の燕市のPR活動が成功するように、また、親善大使にとって、この海外研修が実り多きものとなるように、手助けをすることです。今回は、**Flinders Public School**の全校児童・生徒と、シンガポール新潟県人会、日本人会の方々にPR活動を行う機会がありました。特に、前者の発表が心に残りました。現地コーディネーターの指導のもと発表内容を練り上げ、本番では500人を超える子どもたちを前に、燕市のPR活動を行いました。児童・生徒は、担当する紹介文を、顔を上げ、笑顔で、はっきりと聞き取りやすい声で発表できていました。私はそのとき、子どもたちの発表もさることながら、そこに至るまでの思いを巡らせ、胸がいっぱいになりました。初めてのホームステイや異国での生活を通じて、子どもたちは、ホームシックになったり、思ったように英語でコミュニケーションが取れず苦労したり、食文化や生活習慣が違って困ったりと、これまで経験したことのない様々な出来事に直面しました。それらを経て、ひとまわりたくましくなったことが、発表する子どもたちの姿から伝わってきました。そのような成長に携われたことを、本当にうれしく思います。

もう1つの目標は、この研修の機会を生かし、学んだことなどを、帰国後に、燕市の子どもたちに還元することです。今回、**Flinders Public School**を訪れた際に、燕西小学校と文化交流を行う提案をし、快諾頂きました。月に1度、ビデオレター等で、お互いの学校や国を紹介したり、質問したりし合って、国際理解を深めていくというものです。帰国後すぐにビデオレターを作る有志を6年生に募ったところ、多くの子が参加してくれました。子どもたちは、たいへん楽しそうに、作成に取り組んでいます。また、**Flinders Public School**では、ICTを活用した授業スタイルや学習規律など、様々なことを学ぶことができました。ホームステイ先では、結婚を間近に控えた家庭に滞在し、独身最後の男性だけのパーティに参加する機会にも恵まれました。これらの体験を、さっそく2学期の最初の授業で、燕西小学校、小中川小学校、粟生津小学校の3校の3～6年の子どもたちに伝えました。どのクラスの子たちも、興味をもって話を聞いていました。オーストラリアいいなあ、という子がいた際には、日本のよさに目を向ける話もするなど、国際理解を深め、広げる機会となったと思います。継続して児童に働きかけたいと思っています。

本年度も、12人の親善大使の心に、「世界という大きな視野で考える種」が植えられました。12日間の得難い経験を通して、その種は、しっかりと根を張りました。親善大使のみなさん、これからは、折に触れ、その種に思いを馳せ、水や栄養を与えて、大きく成長させていってください。その種が10年、20年後に、大輪の花を咲かせることを心から期待しています。私は、日々の授業で、同じ種を、燕市の子どもたちに植えていきます。このたびは、本研修の参加の機会を頂き、本当にありがとうございました。



引率者報告

燕市教育委員会学校教育課

指導主事 廣川 統

Jack & Betty プロジェクト親善大使海外派遣事業は今回で7回目となりました。

今年度も、英語スピーチコンテストに挑戦して親善大使に選ばれた 12 名の児童生徒が、海外で燕市を熱心にPRしたり、ホームステイに挑戦したりすることができた、充実した 12 日間となりました。

訪問先は、例年と同じく、オーストラリアのシドニー近郊と、シンガポールでした。ホームステイや現地小学校との交流を行った場所は、シドニーから 100km ほど南にある、フリンダース市周辺で、太平洋沿いの自然に恵まれた町でした。

空港から、バスで2時間ほどかけて現地に向かっているとき、多くの消防車とすれ違いました。帰国後の、2019 年 9 月からオーストラリアで多発した大規模森林火災が8月にもすでに発生しており、実際の災害の様子を見ながらの移動となりました。

親善大使のホームステイは、1 人1 家庭で受け入れてもらいました。英語でのコミュニケーションをはじめ、大変なことはたくさんありましたが、引率の篠崎教諭や添乗員さんに相談し、適切なサポートを受けながら、自分の力で乗り越えて、大変貴重な経験をすることができました。

私は、経営コンサルタントのご主人と、写真家の奥さんご夫婦の家にお世話になりました。2 人とも、環境問題についての意識が高く、プラスチックごみを減らすために、私に水筒をプレゼントしてくれたり、お弁当にはラップを使わず、洗って繰り返し使える包み紙を使用したりしていました。オーストラリア人は、環境問題に関心が強いと聞いていましたが、実際に体験することでさらに認識を深めることができました。

今回は、現地の学校での英語授業に、燕市PRのプレゼンテーション練習を入れてもらい、現地でも厳しい練習を繰り返したおかげで、親善大使は例年以上に、自信をもって堂々と燕市のPRを行うことができ、好評をいただきました。

親善大使の皆さんには、今後、この経験を生かしてさらに多くのことに挑戦し、燕市の未来を担うリーダーとして活躍してくれることを期待しています。



オーストラリア&シンガポール 親善大使活動記

“世界”

はばたけ高く



英語スピーチコンテストで選考された市内在住の小・中学生12人が、海外派遣親善大使としてオーストラリアのシドニー近郊とシンガポールで活動。8月6日から12日間の日程で、ホームステイや現地校での授業を体験してきました。燕市の産業や観光などの魅力を発信する使命を担った大使たちの活動の様子を報告します。

★親善大使

やまざき こより
山崎 恋依さん(燕西小5年)

ますおか ゆ あん
舩岡 優杏さん(吉田中1年)

ゆ がわ こ こ あ
湯川 心愛さん(燕中等2年)

にしむら さ ち
西村 紗智さん(燕中等3年)

ほんだ ゆ づ き
本田 優月さん(吉田小5年)

た な べ あ つ し
田辺 敦士さん(分水中1年)

おか べ み ち こ
岡部 美智子さん(燕中等3年)

は せ が わ あ い
長谷川 葵さん(燕中等3年)

かわむら ほ の か
川村 帆乃花さん(小池中2年)

まつだ ま ひ
松田 万侑さん(分水中2年)

あ が わ か す み
小川 香澄さん(燕中等3年)

か と う り ん
加藤 凛さん(新潟第一中2年)

◎現地小学校での活動(オーストラリア フリンダーズ市立小学校)

4日間、特別英語授業と通常授業に参加しました。体育ではクリケットやホッケーに挑戦、図工では折り鶴を教えるなどしました。ある日の晩「スクールディスコ」が開催され、ダンスをしながら楽しく交流をしました。



◎ホームステイ(オーストラリア：9日間)

朝食の準備や洗濯は自分の仕事。家族の一員として、外国の日常生活を体験しました。チャーハンや味噌汁を作って、喜んでもらった親善大使もありました。動物園や買い物などに連れて行ってもらい親交を深め、お別れの時は親善大使全員が「サンキューカード」を手渡し、感謝の気持ちを伝えました。



◎燕市 PR 活動(オーストラリア、シンガポール)

オーストラリアでは、現地校の全校児童と職員、ホストファミリーに燕市を紹介。「よく分かった」と言ってもらい、これまでの努力が実りました。シンガポールでは、新潟県人会、日本人会、日本人学校の校長先生、現地企業社員など8人に発表。英語スピーチコンテストのスピーチを披露すると、とても驚かれました。





姉妹都市子ども交流事業

ダンディ村 文化交流体験記

燕市から約10,000km離れた姉妹都市アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村へ、7月29日から8月8日まで中学生4人を派遣しました。派遣団員はホームステイをしながら現地の生活に触れ、文化交流をしながらたくさんの貴重な体験をしました。ダンディ村での滞在中の様子と派遣団員たちの声を紹介します。

きたざわ はるか
北澤 春花さん (燕中等3年)

私はダンディ村でとても貴重で楽しい11日間を過ごすことができました。見るもの全てが新鮮で、たくさんの方の生活を吸収することができたと思います。この11日間は宝物です。



◀アメリカ到着!



◀Welcome!! 会えた時とてもうれしかった



◀みんなでタイガースTシャツを着て応援

わたなべ
渡辺 なずなさん (燕中等2年)

この11日間で素晴らしい経験ができました。派遣団員として地元の警察署を見学したことやメジャーリーグを観戦したこと、ホストファミリーと過ごした時間は、どれも楽しい思い出となりました。



◀警察署でバイクに乗せてもらいました!



◀ホストファミリーと過ごしたマキナック島



◀憧れのメジャーリーグ観戦へ!

けら あいみ
解良 藍水さん (燕中等3年)

私は、今回の海外派遣でたくさんの思い出をつくることができました。例えば、休日にホストファミリーとリゾート地のマキナック島に行き、サイクリングをしたことです。



◀ダンディ村役場



◀ホストファミリーと過ごしたマキナック島



◀最後にみんなで

しちり りかこ
七里 梨花子さん (燕中等3年)

今回の海外派遣で現地の文化を学ぶことができました。例えば、祭りで使われる物や乗り物、生活などです。日本との違いを知ることができて良かったです。



◀祭りの様子



◀アメリカのパトカー



◀現地でよく食べられるお弁当のようなもの

